

ヲ以テ消毒法ヲ行ヒ或ハ行ハサルヘシト雖モ爛布古衣夜具ハ勿論
其他檢疫官吏ニ於テ殊ニ危険ナリト見込ムモノハ消毒法ヲ行フヘ
シ

消毒法ヲ行ヒタル物品ハ速ニ陸揚スルヲ得ヘシト雖モ消毒法ヲ
行ハサル物品ハ停船ノ定期滿ル迄陸揚スヘカラス若シ停船中眞性
虎列刺及ヒ疑似症ヲ發スルキハ其船及ヒ人員物品ハ都テ第八條第
九條ニ從ヒ處置スヘシ

第七條

有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ル軍艦ハ其艦長及ヒ醫官ヨリ書面
ヲ以テ該艦來港前七日以内艦内ノ者有病ノ港ニ上陸セシコト無ク又
ハ病毒感染ノ恐ナク且航海中艦内ニ眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲ發

セシコト無キ旨ヲ明告スルキハ直ニ入港スルヲ得ヘシ右ノ書面ヲ差
出サ、ルキハ該艦ハ檢疫停船規則ニ從ハシムヘシ

第八條

船舶來港ノ上其船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル者アル
キハ檢疫官吏ニテ指示シタル停船場ニ移シテ要用ノ消毒法ヲ行ヒ
シ日ヨリ起算シテ七日ノ間停船セシムヘシ
船舶來港前病毒消滅シ而シテ檢疫官吏ノ満足スヘキ方法ヲ以テ消
毒法ヲ施行セルキハ地方檢疫局ニ於テ至當トスヘキ程停船ノ時間
ヲ短縮シ得ヘシ

消毒法施行後停船中眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル者アルキ
ハ地方檢疫局ノ必要ト考斷スル消毒法ヲ再ヒ施行シ其施行ノ時ヨ

リ起算シテ尙三日間停船セシムヘシ但最初定メタル時限猶三日以上アルハ最初定メタル時限ニ達スル迄停船セシムヘシ患者及ヒ死者ノ遺骸ハ第九條ニ從ヒ處置スヘシ

第九條

前條ニ記スルカ如キ船舶ノ來着スルニ方リ其乗組ノ患者未タ癒エサレハ其容体ニ依リ之ヲ避病院ニ移シ若シ己ニ死シテ遺骸ノ處置未タ濟マサルハ其爲メニ設ケタル場所ニ於テ火葬スルカ又ハ其關係アル者ノ望ミニ任セテ十分消毒法ヲ行ヒシ後埋葬スヘシ患者及ヒ遺骸ヲ船中ヨリ他ニ移シタル後夜具衣類其他ノ物品及ヒ船内何レノ部分ニテモ病毒感染ノ恐アル者ハ地方檢疫局ニ於テ指示セル如ク十分ニ消毒法ヲ施スヘシ而シテ消毒法ヲ施ス爲メ要用

ノ人ト船中ヲ取締ルヘキ人トノ外都テ船内ノ人員ハ其人ノ爲メ特ニ設クル所ノ家屋ニ移シ消毒法ヲ行フヘシ船内ニ殘リタル人員ハ船内ニテ消毒法ヲ受クルカ又ハ交代シテ陸上ニアル適當ノ家屋ニ於テ之ヲ受クヘシ

第十條

有病ノ港或ハ其疑アル港ヨリ出帆シ途中ノ港ヲ經ルト雖モ其港ニ於テ檢疫處置ヲ受ケサル船舶ハ直チニ有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ルモノト認メ處置スヘシ

第十一條

郵便ヲ運搬スル諸船ハ着港ノ上速ニ其郵便物ヲ陸揚スルヲ得ヘシ而シテ政府ハ右ノ郵便物ヲ陸揚配達ノ爲メ至當ノ方法ヲ設クヘ

第十二條

病院ニ入ル患者ハ治療及ヒ必需品ヲ受クルヲ得ヘシ
病院或ハ停泊ノ船内ニ在ル患者ヲ尋訪セント欲スル人ハ地方檢疫
局ニ於テ定メタル方法ニ從フヘシ
避病院ニ關係ナキモ醫業ニ達シタル醫士ハ患者又ハ其代理人ノ請
ニ由テ診察協議スルコトヲ得ヘシ
患者ハ醫士ヨリ退院ヲ許ス迄ハ病院ヲ退去スルコトヲ得ス

第十三條

船中ニ於テ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スルコトナキ時ハ停留
セラレタル人ヲ船中ニ停メ置コトヲ得ヘシ又ハ地方檢疫局ニ於テ衛

生上ノ見込ニ從ヒ特ニ陸地ニ設ケアル避病ノ場所ニ移サル、コトア

第十四條

檢疫停船規則施行ノ港ニ來着スル船舶ニ於テ檢疫官吏之ヲ虎列刺
ノ源因ナラント思考スル疑似ノ病徵ヲ發スル者アルキハ其患者ハ
病院ノ別室ニ移シ船ハ醫士ニ於テ其病症ヲ審斷スルニ充分ノ時間
ヲ終ル迄停留セシムヘシ但其時間ハ四十八時ニ過クヘカラス而シ
テ地方檢疫局ハ醫士ノ報告ニ依リテ適當ニ該規則ノ方法ヲ實施ス
ヘシ

第十五條

有病ノ港又ハ其疑アル港ヲ發シ船用品或ハ荷物積込ノ爲メニ途中

檢疫所ノ設ケアル無病ノ一港ニ立寄タル船舶ハ豫メ檢疫官吏ノ檢
 査ヲ經且ツ必要ト認メタル消毒法ヲ行ヒ船用品或ハ貨物ヲ積入ル
 ハ毎ニ地方檢疫局ヨリ指示スル方法ニ從フ可シ
 又該船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發シタルキハ該船又ハ其
 乗込人及ヒ物品ヲ處置スルハ第八條第九條ニ準スヘシ但シ該船内
 ヨリ上陸スル者アルキハ他船ニテ到着シタル人ニ行フヘキ同一ノ
 處置ヲ爲スヘシ
第十六條
 船舶ノ檢査ハ其來着後成ルヘク速ニ施行スヘシ若シ來着後十二時
 間ヲ過キテ檢査ヲナサ、ル時ハ入港スルヲ得ヘシ但シ其遲延天氣
 惡キカ爲メカ又ハ避ケ難キ事情アルカ爲メカ又ハ船長若クハ該船

ニ關係アル人ノ所行或ハ詐僞ニ出ツルカノキハ比限ニアラス其場
 合ニ於テハ其遲延シタルノ事故終リタルキ檢査ヲ爲スヘシ
第十七條

地方檢疫局ヨリ指圖シタル消毒法ハ檢疫官吏之ヲ施行シ其船ノ士
 官及ヒ船員之ヲ補助スヘシ但消毒法ハ之ヲ命シタル時ヨリ成ルヘ
 ク二十四時間ニ完了シ而シテ其入費ハ船主又ハ其責アル者ヨリ辨
 償スヘシ

第十八條
 檢疫停船規則ヲ施行スル港内ニ碇泊中船内ニ眞性虎列刺病又ハ疑
 似症ヲ發シタル船舶ハ直ニ第八條第九條ノ規則ニ從フヘシ
 若シ其船既ニ本港ニ於テ停留ヲ經タルキハ該船ハ再ヒ消毒法ヲ施

スニ止リ其在船ノ人ノミ地方檢疫局ノ必要ト考斷セル處置ニ從ハシムヘシ

第十九條

虎列刺病既ニ流行スル港内ニ來着スル船舶検査消毒法患者及ヒ死者ノ處置ヲ爲スハ前記ノ規則ニ從ハシムヘシト雖モ船及ヒ人員停留ノ規則ハ休止スヘシ

第二十條

第六條第八條及ヒ第九條ニ記スル船舶ノ景狀地方檢疫局ニ於テ特ニ公衆ノ健康ニ危險ナリト思慮シ非常ノ處置ヲ必要トスルキハ此規則外ニ豫防ノ嚴制ヲ施スコヲ得ヘシ其場合ニ方リテ地方檢疫局ハ直ニ中央衛生會ニ臨時ノ報告書ヲ差出スヘシ而シテ右報告書ノ

寫ハ請求ニ依リテ地方檢疫局ヨリ之ヲ該船ノ船長船主又ハ其用達ニ付與スヘシ

第二十一條

○検査中又ハ停留中ノ船舶又ハ停留人ノ寓所ニハ凡ソ何人ヲ問ハス地方檢疫局ノ許可ナクシテ往クコヲ許サス

第二十二條

前條ノ規則ヲ施行スルニ就テ其人ニ係ル所ノ食料醫藥其他欠クヘカラサル費用ハ其本人又ハ代理人ヨリ辨償スヘシ

第二十三條

此規則ニ背キ或ハ從フコヲ拒ム者ハ犯ス毎トニ貳百圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ若シ其船長船主若クハ其船ノ用達又ハ其各人若クハ一

人ノ命令又ハ利益ノ爲メ此規則ニ背キ或ハ從フコトヲ拒ムハ每犯
 罰金五百圓ニ至ルマテ増加スルコトアルヘシ
 此規則ニ就テ拂フヘキ費用ヲ辨償セサルモノアルトキハ民事ノ訴
 訟ヲ以テ之ヲ要求スヘシ
 但シ罰金ハ科セサルヘシ
 此規則ヲ犯シ停留場ヲ脱去スル者ハ（船又ハ人）罰金ヲ科シ且即時停留場
 ニ返ラシムヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本案不備不明等ノ廉ナシト思考スル者ヲ起
 立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク起立セルヲ以テ例ニ遵ヒ上奏スヘキ旨ヲ告ケ散會

セシム

午前第九時三十分閉場

元老院會議筆記

元老院會議筆記明治十二年八月一日

○第一百五十一號議案地所名稱區別中第一讀會

議長親王 親王仁

出席議員

- 一番 東久世通禧
- 二番 水本 成美
- 三番 伊集院兼寛
- 四番 福羽 美靜
- 五番 秋月 種樹
- 六番 大久保一翁
- 七番 齋藤 利行

- | | |
|-----|-------|
| 九番 | 黒田 清綱 |
| 十一番 | 山口 尚芳 |
| 十二番 | 河野 敏鎌 |
| 十四番 | 中島 信行 |
| 十五番 | 津田 眞道 |
| 十七番 | 楠田 英世 |
| 十八番 | 津田 出 |
| 十九番 | 河田 景與 |
| 二十番 | 佐野 常民 |
| 廿一番 | 岩下 方平 |
| 廿三番 | 柳原 前光 |

- | | |
|-----|-------|
| 廿四番 | 細川潤次郎 |
| 廿五番 | 田中不二磨 |
| 廿六番 | 伊丹 重賢 |
- 議長 第五百五十一號議按ノ第一讀會ヲ開ク
- 書記官 戸田 秋成 左ノ議按ヲ朗讀ス
- 議長 第五百五十一號議按ノ第一讀會ヲ開ク
- 午前第八時四十五分開場

明治十年^{十一月} 第五百五十一號布告地所名稱區別中官有地第二種第四種地租ヲ課セス區入費ヲ賦スルヲ法トスアルヲ地租地方稅ヲ課セサルヲ法トスニ作り其他區入費トアルハ都テ地方稅ト改正候條此旨布告候事

○外番一番股野 本案ハ短簡明瞭ナルヲ以テ喋々説明ヲ要セス只按中

明治十年ハ七年ノ誤寫ナレハ今豫シメ之ヲ訂正ス

○四番美福羽 案中ニ其他區入費トアルヲ都テ地方稅ト改正云ヤト記

載セシハ地所名稱ノ區別ニ關シテ之カ改正ヲ要スルカ將タ之ニ關セサルノ改正ナリヤ

○外番一番股野 全ク明治七年第二百十號布告ノ改正ニシテ他ヲ指スニアラス

○四番美福羽 從前區入費ト稱スル者ハ正租ノ五分一ト其他ニ課出スルモノトヲ總稱シ來レルナリ故ニ本按モ亦之ヲ總稱シテ地方稅ト稱スルカ或ハ正租ノ五分一ノミヲ單稱スルモノナルヤ

○外番一番股野 昨年第十九號布告ヲ以テ從前ノ民費ヲ區分シ之ヲ地

方稅及協議費トナセリ故ニ本按ノ如ク改稱セサルヲ得サルナリ

○二十番常佐野 明治七年ノ布告ハ區入費ヲ賦スルノ法ナリ本按ニ於テハ之ヲ賦セストス是如何ナル理由ニ源スルヤ又既ニ地方稅ヲ課セストセハ協議費モ亦課セサルノ精神ナリヤ

○外番一番股野 地方名稱ノ布告ハ明治六年ニ在リト雖モ當時未タ地券ヲ頒與スルノ法ナク官公私有ノ區分未タ以テ判然整備ニ至ラザリシ故ニ七年ニ至リ初メテ其區分ヲ立テ課スル者ト課セサル者ト

ノ種類ヲ分ツテ布告セリ爾後改租ノ事業漸次整理ニ就キ官公私有ノ區別モ亦判然セシヲ以テ第二種第四種ニハ租稅ヲ課セサルヲ適當トス依テ本案ノ如クセシナリ

○二十番常佐野 前ニ課稅セシハ其課スヘキ條理アルヲ以テナルヘシ

今又之ニ課ス可ラスト爲スハ所謂昨非今是ノ類ナランカ其條理果シテ如何トナス且協議費ノ如キモ共ニ之ヲ課セサルノ精神ナリヤ

○外一番 從前ノ課稅ハ非ナルヲ以テ今之ヲ課セスト改正セシ
ノミ其故ハ從來國稅ヲ以テ支辨セシ經費中モ亦地方稅ヲ以テ支辨スル者アルヲ以テナリ協議費ニ至テハ固ヨリ其協議ニ任スル者ナレハ更ニ本案ノ間フ所ニアラス

○議長 第一讀會ヲ閉チ第二讀會ハ來ル四日ニ開クヘシ散會セヨ
午前第九時十分閉場

元老院會議筆記明治十二年八月四日

○地所名稱區別中 第五十一號議按改正ノ儀布告按 第二讀會第百五十二號議按 檢視ノ后之ヲ開ク
議長 熾仁 親王

出席議員

- 一番 東久世通禧
- 二番 水本 成美
- 三番 伊集院兼寛
- 四番 福羽 美靜
- 五番 秋月 種樹
- 六番 大久保一翁
- 九番 黒田 清綱

十一番	山口 尚芳
十五番	津田 眞道
十七番	楠田 英世
十九番	河田 景興
二十番	佐野 常民
二十一番	岩下 方平
二十三番	柳原 前光
二十四番	細川潤次郎
二十五番	田中不二磨
二十六番	伊丹 重賢
二十七番	河瀬 眞孝

○議長 第五百五十一號議按第二讀會ヲ開ク

書記官 戸田秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

布告按

明治十年^{十一月} 第二百二十號布告地所名稱區別中官有地第二種第四種地租ヲ課セス區入費ヲ賦スルヲ法トストアルヲ地租地方稅ヲ課セサルヲ法トスニ作り其他區入費トアルハ總テ地方稅ト改正候條此旨布告候事

○二十四番 細川潤次郎 本按字句穩安ナラサルモノアリ將ニ之ヲ修正セ

ントス明治七年第二百二十號布告ニハ官有地第二種第四種ハ地租ヲ課セス區入費ヲ賦スルヲ法トストアリ從來租ニハ課ノ字區入費ニハ賦ノ字ヲ用フルヲ以テ慣例トセリ蓋シ從前ノ區入費ナル者ハ則

現今ノ地方税ナルヲ以テ之ニ賦ノ字ヲ用フルトキハ管ニ慣例ナル
ノミナラス字句モ亦妥當ナルヘシ仍テ本按ヲ修正シテ地租ヲ課セ
ス地方税ヲ賦セスト爲サント欲ス

○二十五番 田中不
二營

贊成

○議長 二十四番ノ動議ニ贊成アルヲ以テ問題ト爲ス

○四番 福羽
美静

二十四番ノ修正ハ僅ニ字句ノ間ニ過キサルモ本官ハ之

ニ左袒セサルナリ夫レ從前官有地ノ第二種第四種ハ地租ヲ課セス
シテ區入費ヲ賦セシ者ナリ今本案ハ地方税ヲモ併テ賦セサルヲ以
テ法トセリ然レハ則社寺學校地ノ如キモ其地方税ハ賦ス可ヲサル
モノトス内閣委員ノ説明ニ政府ノ經費ハ國税ヲ以テ支辨スル者ナ
リ故ニ其官用地ニ地方税ヲ賦スルハ不適當トスト是殆ト理論ノ一

偏ニ傾斜シタル者ト言ンカ熟ラ實際ノ狀況ヲ通觀スルニ從前ノ區
入費中ニ其協議費ト地方税トノ區分猶未タ判然セス是ヲ以テ各府
縣ニ於テ或ハ適宜ノ賦課法ヲ設クル者アリ既ニ戶數割ノ如キ東京
府下各區ノ適宜ニ依リ之ヲ賦課シ復タ一樣ナラスト云果シテ然ラ
ハ地方税ハ賦セサルモ協議費ハ之ヲ課スル可キニ似タルモ其區別
ヲシテ判然タラシムルニ酷タ難事ナルヘシ且現今官用地需用ノ制
限ナキヲ以テ或ハ官ノ便宜ニ依リ頗ル廣濶ナル地ヲ需用ナスモ官
民ノ際勢ヒ協議費ヲ課スルヲ得サルコアリ若シ然ラハ官府社寺等
ハ良シヤ其利益アルモ該地方ノ人民ハ是カ爲メニ其負擔ヲ重クシ
之ヲ辨償セサル能ハス此ノ如キハタトヒ理論上ニ正當ナルモ實際
大ナル不便ヲ生スヘシ故ニ先ツ姑ク舊慣ニ遵ヒ民情ノ趨向ヲ察シ

徐々之ヲ施行スルモ未タ晚カラサルナリ故ニ本案ヲ廢スルニ如カ
ス

○二十四番細川潤次郎 四番ノ論旨ヲ玩味スルニ昨年第十九號ノ布告ニ
對シ其不整備ヲ指摘スル者ノ如シ果シテ然ラハ別ニ意見書ヲ提出
スルノ便法ヲ以テ人民ノ疾苦ニ應スヘキ者ナラスヤ本按ハ原ト簡
單ナル問題ナリ故ニ此問題ニ對シ唯其不整備ナルヲ修正シテ可ナ
リ姑ラク舊慣ニ由ルノ說ハ或ハ可ナルモ如何セン從來ノ區入費モ
既ニ地方稅ノ稱呼ヲ下ストキハ殆ト其地租ト同等ノ地位ニ昇ラン
コトヲ依テ單ニ區入費ト稱シ現時ノ協議費ト同様ノ看ヲ爲スモ亦可
ナリト雖モ地方稅ハ正租ノ五分一ヲ以テス既ニ其地租ヲ課セサレ
ハ此五分一ヲ賦スルヲ得サルハ固ヨリ論ヲ待ス其他營業雜種稅ノ

○如キハ官用地皇族邸地等ニ賦スル者タラスト雖モ獨リ戸數割ニ至
リテハ官衙皇族邸舍ニ賦スルヲ得ル者ナリトノ誤解ナキヲ保タス
故ニ新法ヲ施行スルニ方テハ明治七年第二百號布告ニ改正ヲ要
セサルヲ得サルナリ是ヲ以テ其按ニ對シテハ僅々タル修正ヲ加ヘ
テ之ヲ整齊ナラシメテ可ナリ若シ夫レ新法ノ弊ヲ發見スルトキハ
他日意見書ヲ草シテ之ヲ論究シテ可ナラスヤ

○四番福羽美靜 本官ハ實際人民ノ疾苦ヲ増サンコトヲ憂ルヲ以テ姑ラク
本按ヲ廢セント欲ス固ヨリ理論ノ一偏ヨリ論到スルニアラス夫レ
明治七年第二百號布告中官有地第一種ハ地券ヲ發セス地租ヲ課
セス區入費ヲ賦セサルヲ以テ法トシ第二種ハ地券ヲ發シ地租ヲ課
セス區入費ヲ賦スルヲ以テ法トストアリ第三種ハ第一種ト同シク

第四種ハ第二種ニ均シ然ルニ第二種ノ但書ニ府縣所用ノ地ハ地券ヲ發セス唯帳簿ニ記入スト掲ケ其地券ヲ發セサルモ猶區入費ヲ賦スルノ故ヲ以テ之ヲ第二種ニ編入セリ今若シ本按ノ如ク地方稅ヲ課セストスルトキハ即チ第二種第三種モ亦第一種第三種ト俾シキ者タリ故ニ特ニ繁碎ナル區分ヲ設クルヲ須ヒス共ニ廢按ニ付セント欲スルナリ

○二十三番 柳原前光 本官ハ別ニ建議アリ本日ハ内閣委員モ闕席セシヲ以テ本按ノ主旨ヲ質問シ其辨明ヲ求ルニ由ナシ仍テ本會ヲ中止シ委員ヲ選擇シ之ニ全部ノ修正ヲ附托シ其報告ヲ得テ後更ニ第二讀會ニ附セラレンコトヲ可トス

○二十六番 伊丹重賢 賛成

○議長 二十三番ノ建議ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者十四人

○議長 多數ナルヲ以テ二十三番ノ建議ニ決シ四番 福羽美靜 二十四番 細川潤次 二十五番 田中不 郎 菅 ヲ以テ委員トナシ其報告ヲ得テ後開會スヘシ散會セヨ

午前第九時四十分閉場

元老院會議筆記明治十二年八月十八日

○第一百五十一號議按地所名稱區別中第二讀會八月四日及第三讀會

議長親王 熾仁

出席議員

- 一番 東久世通禧
- 三番 伊集院兼寛
- 四番 福羽 美静
- 五番 秋月 種樹
- 六番 大久保一翁
- 七番 齋藤 利行
- 八番 大給 恒

千原大湖閣下
 議事
 第二十五番
 第二十三番
 第二十四番
 第二十二番
 第二十一番
 第二十番
 第十九番
 第十八番
 第十七番
 第十六番
 第十五番
 第十四番
 第十三番
 第十二番
 第十一番
 第十番
 第九番
 第八番
 第七番
 第六番
 第五番
 第四番
 第三番
 第二番
 第一番

九番	黒田 清綱
十一番	山口 尙芳
十二番	河野 敏録
十五番	津田 眞道
十六番	山田 顯義
十七番	楠田 英世
十八番	津田 出
十九番	河田 景與
二十番	佐野 常民
廿一番	岩下 方平
廿三番	柳原 前光

午前第八時三十五分開場

○議長 第五百十一號議按第二讀會ヲ開カントス然ルニ茲ニ原按修正案ノ兩様アリ今修正案ヲ以テ本按トスルヲ可トスル者ハ起立ス可シ

○議長 全員悉起立

○議長 全員悉ク可トセシニヨリ修正按ヲ以テ本按トナス

書記官 本田親雄 左ノ按ヲ朗讀ス

布告案

廿五番 田中不二啓
廿六番 伊丹 重賢

○議長 内閣委員 香外 太政官少書記官 殿野 琢

明治七年^{十一月} 第一百二十號布告地所名稱區別中官有地第二種第四種
 區入費ヲ賦スルヲ法トストアルヲ地方稅ヲ賦セサルトシ第三種但
 書借地料及ヒ區入費ヲ賦スヘシトアルヲ借地料ヲ納メシムベシト
 シ其他區入費トアルヲ都テ地方稅ト改正候條此旨布告候事

○議長 發議ナキヲ以テ本案ヲ可トスル者ハ起立ス可シ

五 全員悉起立

○議長 全員悉ク可トセシヲ以テ第二讀會ヲ閉ツ

○^{外一番股野}議員 八直ニ第三讀會ヲ開カンテヲ請求ス

○議長 委員ノ請求ヲ可トスル者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全員悉ク可トセシヲ以テ引續第三讀會ヲ開ク可シ

書記官 ^{本田親雄} 左ノ按ヲ朗讀ス

布告案

明治七年^{十一月} 第一百二十號布告地所名稱區別中官有地第二種第四種
 區入費ヲ賦スルヲ法トストアルヲ地方稅ヲ賦セサルトシ第三種但
 書借地料及ヒ區入費ヲ賦スヘシトアルヲ借地料ヲ納メシムヘシト
 シ其他區入費トアルヲ都テ地方稅ト改正候條此旨布告候事

○議長 發議ナキヲ以テ本案ヲ可トスル者ハ起立ス可シ

全員悉起立

○議長 全員一致可決セシヲ以テ本會ヲ確定ノ決議トシ例ニ照シ上
 奏ス可シ散會セヨ

午前第八時四十五分閉場

本會定於八月二十五日開會
 議定各員一覽如左
 全體悉數立
 其進項人費
 番附取件及
 同人費
 附錄
 亦吉案

元老院會議筆記明治十二年八月四日

○第一百五十二號議按檢疫停船規則中檢視會
正誤ノ儀布告案

議長 熾王
親王

出席議官

- | | | |
|----|-----|----|
| 一番 | 東久世 | 通禧 |
| 二番 | 水本 | 成美 |
| 三番 | 伊集院 | 兼寬 |
| 四番 | 福羽 | 美靜 |
| 五番 | 秋月 | 種樹 |
| 六番 | 大久保 | 一翁 |
| 九番 | 黑田 | 清綱 |

十一番	山口	尙芳
十五番	津田	眞道
十七番	楠田	英世
十九番	河田	景與
二十番	佐野	常民
廿一番	岩下	方平
廿三番	柳原	前光
廿四番	細川	潤次郎
廿五番	田中	不二曆
廿六番	伊丹	重賢
廿七番	河瀬	眞孝

午前第九時二十分開場

○議長 第五百五十二號議案ノ檢視會ヲ開ク案中備明ナラスト爲スモ
ノアラハ例ニ由リ發議ス可シ

書記官 戸田 秋成 左ノ案ヲ朗讀ス

明治十二年七月二十九號布告檢疫停船規則中左ノ通正誤候條此旨
布告候事

檢疫停船規則

- 第二條 (諸開港場ニ於テハ)ノ八字ヲ刪リ(中央衛生會)ノ下ノ所決
ニ依リテ)ノ七字ヲ(ニテ決スル處ノ開港場ニ)ニ作ル
- 第四條 (明告書ヲ出スヘシ)ヲ(明告書ニ調印シテ差出スヘシ)ニ作ル
- 第五條 (明告書)ノ下(及其他ノ手續)ノ六字ヲ加フ

同第二項 (又ハ)ノ二字ヲ及ニ作リ(記名ヲ調印)ニ作ル

第七條 (艦内ノ者有病ノ港ノ下或ハ其疑アル港)ノ七字ヲ加フ

第八條第二項 (キ)ヲ上ニ作リ(至當トスヘキ)ヲ(可トスル)ニ作ル

同第三項 (考斷スル)ノ下ヘ(程)ノ字ヲ加ヘ(再ヒ)ヲ(反復)ニ作ル

第十一條 (郵便)ノ上ニ(定期)ノ二字ヲ加ヘ(陸揚)ヲ(運送)ニ作ル

第十四條 (適當ニ該規則ノ方法)ノ九字ヲ(該規則ノ内其場合ニ適

スル條款)ニ作ル

第十八條第二項ノ全文ヲ (然リト雖モ若シ其船既ニ本港ニ於テ停

留ヲ經タル時ハ檢疫官ハ地方檢疫局ニテ必要ト考斷スル丈ケノ

ミノ消毒及檢査ノ方法ヲ反復施行スヘシ)ニ作ル

第十九條 (規則ニ從ハシムヘシ)ノ下ヘ(右ヲ施行スル爲メノ豫備

ハ政府ニ於テ爲スヘシ)ノ二十一字ヲ加フ

○議長 發議ナキヲ以テ本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致異議ナク檢視ヲ經過セシ旨ヲ具シ例ニ遵ヒ上奏ス

可シ

右訖テ第百五十一號議案第二讀會ヲ開ク

元老院會議筆記明治十二年八月廿九日

○第百五十三號議案 本年^大第二十三號布告虎列檢視會
剝病豫防假規則更正ノ布告

議長 熾仁

出席議員

- 一番 東久世通禧
- 二番 水本 成美
- 三番 伊集院兼寛
- 四番 福羽 美靜
- 五番 秋月 種樹
- 六番 大久保一翁
- 七番 齋藤 利行

八番	大給 恒
九番	黒田 清綱
十二番	河野 敏鎌
十五番	津田 眞道
十七番	栴田 英世
十九番	河田 景與
廿一番	岩下 方平
廿三番	柳原 前光
廿四番	細川潤次郎
廿五番	田中不二齋
廿六番	伊丹 重賢

廿七番 河瀬 眞孝

午前八時五十分開場

○議長 本日ハ第五十三號議按ノ檢視會ヲ開ク例ヲ照シ檢視ス可シ且ツ本按ハ便宜布告後本院ノ檢視ニ附セラレタルモノナルヲ以テ慣例ニ從ヒ布告按ヲ朗讀シ本文ハ省畧セントス之ヲ可トスル者ハ起立スヘシ

全員悉起立

○議長 全會一致ヲ以テ布告按ノミヲ朗讀ス可シ

書記官 城多董 代理 左ノ按ヲ朗讀ス

明治十二年六月第二十三號布告虎列刺病豫防假規則別冊ノ通更正候條此旨布告候事

虎列刺病豫防假規則 以下朗讀

第壹條 醫師ハ虎列刺病ヲ診察スル時ハ成ル可ク速ニ患者所在ノ郡區吏町村吏或ハ警察署ニ通知シ郡區吏町村吏或ハ警察署ハ速ニ之ヲ地方廳ニ届出ヘシ

但醫師ノ通知ハ診察ノ後遅クモ二十四時間ヲ過ク可ラス

第二條 地方長官ハ其管轄内ニ虎列刺病アルノ報知ヲ得ル時ハ先ツ其流行地方ニ豫防方法ヲ諭告シ速ニ之ヲ内務省ニ申報シ且管内一般及ヒ近隣ノ地方廳兵營等ニ報告スヘシ
但地方長官ハ中央衛生會ヨリ附與スル書式ニ照準シ該病ノ性狀ヲ詳記シ時々申報スヘシ

第三條 陸海軍兵營其他官省所轄ノ學校病院製作所等ニ於テ虎列

刺病患者アルモ該主長ハ速ニ該地方廳ニ報知シ爾后ノ景況モ時々報知ス可シ

第四條 内國郵便船其他諸船舶汽車製造所學塾等ニ於テ虎列刺病患者アルモ速ニ該主長ヨリ最寄警察署或ハ郡區吏町村吏ニ届出ヘシ

第五條 地方長官ハ其病性ノ劇惡ナルヲ認定スルモハ醫師衛生掛警察官吏郡區吏等ヨリ適當ノ人員ヲ撰テ之ニ檢疫委員ヲ命シ此規則ヲ實施セシムヘシ

第六條 病性劇惡ナルモハ地方官ニ於テ時々之ヲ管内ニ告示シ毎土曜日ニハ患者新舊及ヒ其總數治癒死亡ヲ表ニ製シ内務省ニ申

報スヘシ

但沿海船舶交通ノ地方廳ヘハ別段通牒シテ互ニ出入ノ船舶ヲ
檢査シ患者若クハ死者アルキハ相當ノ處分ヲナスヘシ

第七條 避病院ハ成丈ケ人家隔絶ノ場所ニ建設シ其構造ハ極メテ
輕易ヲ主トシ輕症重症ノ患者ヲ區別シ且ツ恢復期ノ患者ヲ分隔
シ其大小員數ハ適宜斟酌スヘシト雖モ病室ハ四疊ニ一人ヲ置ク
ヲ常トシ多キモ二疊一人ニ過ク可ラス

第八條 避病院ハ黃色ノ布ニ「コレヲ」ノ三字ヲ黑記シタル標旗ヲ建
テ其境界ニハ制止榜ヲ立テ嚴ニ外人ノ出入ヲ絶ツ可シ且ツ該院
需用スル一切ノ物品ハ使丁ヲ定メテ之ヲ辨セシメ其使丁ハ病室
ニ入り又病毒汚染ノ物品ニ觸ル、ヲ許サス

但病者ノ近親見舞ノ爲メ避病院ニ入ランコトヲ願フモノハ其情
實ヲ斟量シテ之ヲ許可シ其在院ノ時間ハ醫員ノ指圖ニ從フ可
シ

第九條 檢疫委員ハ避病院ノ病者全快シタル時之ニ全快ノ證書ヲ
與ヘ十分ノ消毒法ヲ行ヒタル後退院ヲ許スヘシ

第十條 虎列刺病患者ハ自家ニ在ルモ必ス其室ヲ異ニス可ク其孤
獨貧困ニシテ看病人ヲ雇フ能ハサルモノ或ハ家人幼穉老衰ニシ
テ看護消毒法行届カサルモノ或ハ學舍製造場會社旅店等ニアリ
テ他ニ親戚交友ノ引取人ナキモノ並ニ其他狹隘不潔ノ地ニ雜居
シテ豫防消毒法行届カス病毒ノ傳播ヲ防キ難キ明証アルモノハ
必ス避病院ニ入ラシム可シ

但本條ノ患者ニ非サルモ入院ヲ請フ者ハ他ニ故障ナケレハ其
意ニ任スコトアル可シ

第十一條 虎列刺病者アル家ハ其病名ヲ大書シテ門戸ニ貼附シ治
癒或ハ死亡ノ後ト雖モ一週間ハ不得止事故アルノ外成ヘク他人
ト交通ヲ謝絶スヘシ

第十二條 虎列刺病流行ノ兆候アルキハ地方官ハ管内各所ニ火葬
埋葬及ヒ汚穢物焼却若クハ埋葬ノ場所ヲ定メ置キ決シテ他ノ便
所下水芥溜田圃河水等ニ虎列刺病者ノ吐瀉物汚穢物等ヲ投棄セ
シムヘカラス

但吐瀉物汚穢物ヲ埋藏スルキハ相當ノ消毒法ヲ行フ可シ
第十三條 虎列刺病流行ノ勢益々盛ナルキハ地方長官ニ於テ祭禮

劇場等人民ノ群集スル事業ヲ差シ止ムルコトアル可シ

第十四條 虎列刺病流行ノ時ニ於テ檢疫委員ハ井泉圍廁並ニ芥溜
下水溝渠魚市屠場等總テ病毒ノ媒介トナルヘキ物件場所ニ注意
シ掃除清潔ノ方法ヲ施行スヘシ

第十五條 虎列刺病者ノ死屍ハ豫メ地方廳ニ於テ定メタル場所ニ
於テ速ニ火葬或ハ埋葬スヘシ

但火葬シタル遺骨ハ改葬スルモ妨ケナシト雖モ埋葬ハ深ク之
ヲ埋メ決シテ再ヒ改葬スルヲ許サス

第十六條 虎列刺病者ノ病室船室夜具衣服及器具等ハ檢疫委員ノ
指圖ニ從ヒ必ス十分ノ消毒法ヲ行フヘシ然ラサレハ之ヲ他人ニ
用井又ハ賣買スルヲ許サス尤モ夜具衣服ノ甚シク汚穢シタルモ

ノ及ヒ直ニ吐瀉物ニ汚染シタル疊等ハ之ヲ燒棄スヘシ

但極貧ノ者ニハ物品ニヨリ檢疫委員ニ於テ之ヲ買上ケ燒却スヘシ其重大ナル物品ハ内務省ニ具狀シテ指揮ヲ請フ可シ

第十七條 虎列刺病者若クハ死者ヲ運搬シ或ハ病者若クハ屍體ニ觸レタル物品ヲ贈與受用スル等ノ事ハ檢疫委員ノ指圖ニ從ヒ十分ノ消毒法ヲ行ノ後ニアラサレハ之ヲ許サス

第十八條 虎列刺病者若クハ死者ヲ運搬スルニハ各地方官ニ於テ相當ノ手續ヲ定メ黃色ノ小旗ニコレヲ三字ヲ黑記シテ之ヲ掲ケ世間公用ノ運送器ヲ用フルヲ許サス且ツ其運送ハ成ルヘク水路ヲ以テスルヲ良シトス然ラサレハ捷近ニシテ人行ノ稀ナル所ヲ撰フヘシ又排泄物或ハ病毒ニ汚染シタル器具衣服ヲ消毒場或

ハ燒却場ニ送ルモ同様ノ手續ニ隨フヘシ

但急遽ノ際止ムヲ得ス世間公用ノ運送器ヲ用タルキハ其布帛ノ類ハ悉ク燒棄シ其他ハ十分ノ消毒法ヲ行フヘシ

第十九條 虎列刺病患者若クハ死屍運搬ノ舟車駕釣臺等ハ毎回必ス十分ノ消毒法ヲ行ヒ品ニ寄り流行終熄ノ後之ヲ燒棄スヘシ

第二十條 陸海軍其他諸官省所屬ノモノ、治療豫防ハ素ヨリ該官省ニ於テ相當ノ處置ヲ爲スヘシト雖モ臨時府縣廳ト協議シ自他人民豫防ノ爲メ便宜處分スルコトアルヘシ

第廿一條 虎列刺病流行ノ際該地方廳ニ於テハ成ルヘク各種消毒藥ノ價ヲ一定シ一般ニ購求シ易カラシムルノ方法ヲ設ク可シ

第廿二條 醫師診察ノ上其虎列刺病タルヲ知りテ其通知ヲ怠リ二

十四時間ヲ過ル者ハ三十圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ其故意ニ隱蔽シタル者ハ百圓以内ノ罰金ヲ科シ並ニ一時醫業免狀ヲ取上ケ百日以内醫業ヲ停止スルコトアルヘシ

○議長 本案ヲ可ト認ムル者ハ起立セヨ
全員悉起立

○議長 全員悉ク可認シタルヲ以テ本案ハ檢視ヲ經過シテ異議ナキニ決ス例ニ遵テ上奏スヘシ散會セヨ
午前八時五十五分閉場

元老院會議筆記明治十二年九月一日

○第百五拾四號議按 神奈川縣下相州長浦灣長崎縣下長崎
港外ニ於テ檢疫法施行停止ノ布告 檢視會

議長 河野敏鎌
代理

出席議員

- 一番 東久世通禧
- 二番 水本 成美
- 三番 伊集院兼寛
- 四番 福羽 美靜
- 五番 秋月 種樹
- 六番 大久保一翁
- 七番 齋藤 利行

九番 黒田 清綱
 十一番 山口 尙芳
 十四番 中島 信行
 十五番 津田 眞道
 十八番 津田 出
 十九番 河田 景與
 二十番 佐野 常民
 二十一番 岩下 方平
 二十三番 柳原 前光
 二十四番 細川潤次郎
 二十五番 田中不二管

午前第九時五分開場

○議長 本日ハ第百五拾四號議按ノ檢視會ヲ開ク可シ

書記官 本田親雄 左ノ按ヲ朗讀ス

本年七月第二十九號布告檢疫停船規則ニ因リ神奈川縣下相州長浦灣長崎縣下長崎港外ニ於テ檢疫法施行候處自今右停止候條此旨布告候事

○議長 發議ナシ本按ヲ可認スル者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致可決シタルヲ以テ本按ヲ備明トシ例ニ依リ上奏ス

二十六番 伊丹 重賢
 二十七番 河瀬 眞孝

九番	黒田 清綱
十一番	山口 尚芳
十二番	河野 敏録
十四番	中島 信行
十五番	津田 眞道
十九番	河田 景興
二十番	佐野 常民
廿一番	岩下 方平
廿三番	柳原 前光
廿四番	細川潤次郎
廿六番	伊丹 重賢

午前第九時開場

廿七番 河瀬 眞孝

○議長 本日第百五十五號議案ノ檢視會ヲ開ク備明ナラストセハ例ニ準リ發議アル可シ

書記官 木田 親雄 左ノ案ヲ朗讀ス

- 一 貿易壹圓銀量目七匁二分七厘六毛性合銀九銅二ノ儀今後稅關ノ諸稅及其他凡ソ洋銀ヲ以テ取引スヘキ諸勘定ノ拂方ヲナス爲メ之ヲ差出スルハ諸官廳ニ於テハ之ヲ洋銀ト並價ニテ受領スヘシ
- 一 本月十九日以後ハ人民ニ於テ凡ソ負債其他ノ拂方洋銀ヲ以テ履行スヘシト結約シタル所ノ金高ヲ拂フ爲メ右一圓銀ヲ差出スルハ之ヲ洋銀ト並價ニテ受領スヘシ

右布告候事

○議長 發議ナキヲ以テ本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ
全員悉起立

○議長 全會一致本案異議ナク檢視ヲ經過セシ旨ヲ以テ例ニ遵ヒ上
奏ス可シ

右訖テ第四百四十六號第二讀會ノ續ヲ開ク

元老院會議筆記明治十二年九月廿九日

○第四百五十六號議按 第三十七號布告東京并大阪株式取引所ニ於
號布告橫濱洋銀取引所ヲ橫濱取引所ト
改稱シ當分ノ内金銀貨幣取引差許候儀 檢視會

議長 河野敏錄
代理

出席議員 廿六番

- 十番 東久世通禧
- 二番 水本 成美
- 三番 伊集院兼寛
- 四番 福羽 美靜
- 五番 秋月 種樹
- 六番 大久保一翁

- 十一番 山口 尚芳
- 十四番 中島 信行
- 十五番 津田 眞道
- 十七番 楠田 英世
- 十九番 河田 景與
- 廿一番 岩下 方平
- 廿六番 伊丹 重賢
- 廿七番 河瀬 眞孝

午前第九時四十分開場

○議長 第五百五十六號議按中第三十七號布告檢視會ヲ開ク備明ニ欠
 次下認ムルモノハ例ニ依リ發言ス可シ

書記官 戸田 秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

東京并大阪株式取引所ニ於テ當分ノ内金銀貨幣取引差許候條此旨
 布告候事

○議長 本按ヲ可トスル者ハ起立セヨ
 全員悉起立

○議長 全會一致可ト決ス續テ第三十八號布告檢視會ヲ開ク
 書記官 戸田 秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

本年^二第八號布告ニ據リ設立シタル横濱洋銀取引所ノ儀自今横濱
 取引所ト改稱シ當分ノ内金銀貨幣取引差許候條此旨布告候事

○議長 本按ヲ可トスル者ハ起立セヨ
 全員悉起立

○議長 全會一致異議ナク檢視ヲ經過セシ旨ヲ以テ例ニ遵ヒ上奏ス

○可シ散會セヨトイヌ者ハ強立ナリ

○午前第九時四十三分閉場 事務理事長者事務理事會事務理事

本半 二人發證書ニ對シ強立ニシテ事務理事長事務理事會事務理事

事務理事會

事務理事會

○議長 全會一致四イ丸ニ附テ第三十八號證書發證書ニ關シ

全員悉強立

○議長 本對マ四イヌ者ハ強立ナリ

事務理事會

東京府式週知矢野氏遺ニ付テ當公ノ内金給付事務理事會事務理事會

事務理事會

元老院會議筆記明治十二年十月六日

○第百五十七號議按 明治十一年十一月第三十五號布告但書追加ノ儀布告 檢視會

議長 熾仁 親王

出席議員

- 一番 東久世通禧
- 二番 水本 成美
- 三番 伊集院兼寛
- 四番 福羽 美靜
- 六番 大久保一翁
- 八番 大給 恒
- 十一番 山口 尙芳

十五番	津田 眞道
十七番	楠田 英世
十八番	津田 一出
十九番	河田 景與
二十番	佐野 常民
廿一番	岩下 方平
廿三番	柳原 前光
廿四番	細川潤次郎
廿五番	田中不二磨
廿六番	伊丹 重賢
廿七番	河瀬 眞孝

午前第九時五十分開場

○議長 第五百七十七號議按ノ檢視會ヲ開ク不備不明トスル廉アラハ
例ニ遵ヒ發議ス可シ

書記官 戸田 秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

明治十一年^{十一月}第三十五號布告へ左ノ通但書追加候條此旨布告候
事

但貿易壹圓銀一般通用ノ儀ハ明治十一年^{五月}第十二號布告ノ通可
相心得事

○議長 發議ナキヲ以テ本按ヲ可トスル者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致異議ナク檢視ヲ經過セシ旨ヲ以テ例ニ遵ヒ上奏ス

- | | |
|-----|-------|
| 九番 | 黒田 清綱 |
| 十四番 | 中島 信行 |
| 十五番 | 津田 眞道 |
| 十八番 | 津田 出 |
| 十九番 | 河田 景與 |
| 二十番 | 佐野 常民 |
| 廿一番 | 岩下 方平 |
| 廿三番 | 柳原 前光 |
| 廿四番 | 細川潤次郎 |
| 廿五番 | 田中不二齋 |
| 廿六番 | 伊丹 重賢 |

廿七番 河瀬 眞孝
内閣委員 番外 一番 太政官少書記官股野 琢

午前第九時五十分開場

○議長 第五百十八號議按第一讀會ヲ開ク書記官朗讀ノ後例ニ遵ヒ
 發議アルヘシ但第一類表以下ハ煩ヲ省キ朗讀セシメサル可シ

書記官 戸田 秋成 左ノ按ヲ朗讀ス
 布告按

藥品取扱規則左ノ通相定來ル 月 日ヨリ施行シ明治十年二月第二
 十號布告毒藥劇藥取扱規則ハ右同日限相廢候條此旨布告候事

藥品取扱規則

第一條 凡ソ藥品中最注意シテ精選スヘキモノヲ第一類トシ其性
 効峻烈ニシテ僅少ノ分量ト雖モ直チニ生命ヲ傷害スルニ足ルヘ
 キモノヲ第二類^{毒藥}トシ其性効第二類ノ如ク峻烈ナラサルモ用量
 ニ因テ容易ニ危害ヲ來スヘキモノヲ第三類^{劇藥}トス其類目別表ノ
 如シ

但新タニ發見及ヒ舶齋シタル藥品ハ先ツ最寄司藥場ニ出シ
 テ試験ヲ受ケ其告示スル所ニ從フヘシ

第二條 第一類藥品ハ其性効ノ緩劇ニ拘ハラヌ若シ精良ナラサル
 トキハ醫師ノ目的ヲ誤リ以テ人命ヲ危フスルカ故ニ其粗製品故
 ニ他物ヲ混シタルニアラス全ク化學製造上或ハ採收ハ之ヲ藥用
 ノ際其法疎漏ニシテ純精ナラサルモノ、類ヲ云フトシテ販賣スヘカラス

但藥舖ニ於テ自ラ其良否ヲ鑑別シ能ハサルモ最寄司藥場
 ニ請ヒ無費ニテ其試験ヲ受クルコトヲ得

第三條 第一類中ノ粗製品ニシテ藥用ト爲スヘカラサルモノト雖
 モ仍ホ學術上工職上等ノ用ニ供スルニ足ルモノハ粗製ノ字ヲ其
 器ニ明記シ非藥用トシテ之ヲ販賣スルコトヲ得

第四條 第二類^{毒藥}第三類^{劇藥}藥品ハ醫師ノ處方書ニ據テ調合スル
 ノ外醫師藥舖化學者製藥者工職者等ヨリ品名量數需用ノ目的年
 月日及ヒ住所姓名ヲ詳記シタル證書ヲ以テスルニアラサレハ決
 シテ販賣或ハ授與スヘカラス

但證書處方書ハ之ヲ保存シ臨時ノ點檢ニ供スヘシ且本條ノ
 手續ニ依ルモノト雖モ幼稚ノモノ其他不安心ト認ムルモノ

ニハ一切交付スヘカラス

第五條 第二類第三類ノ藥品ヲ販賣スルトキハ其器若クハ包紙ヘ必ラス普通ノ名稱ヲ記シ且第二類ハ毒ノ字第三類ハ劇ノ字ヲ明書スヘシ

但醫師ノ處方書ニ據ラスシテ封緘ヲ開キタル第二類第三類ノ藥品ヲ小賣若クハ授與スルトキハ本文ノ外更ニ適應ノ器ニ入レ密閉封印スヘシ

第六條 第二條第四條本文ニ背戻シ又ハ贋敗品贋品トハ故意ニ他合シテ其容量重量ヲ増スモノ若クハ他ノ物品ヲ本品ニ混或ハ名箋ヲ變換スルモノ、類ヲ云ヒ敗品トハ總テ酸敗風化或ハ潮解シ若クハ黴穢ヲ生シ陳敗ニ傾ク等ニ因リ其藥品本ヲ販賣ス性ノ効力ヲ變シ或ハ其効力ヲ失スルモノ、類ヲ云フヲ販賣スルモノハ其贋敗品ヲ没入シ三拾圓以上貳百圓以下ノ罰金若クハ

三拾日以上貳百日以下ノ禁獄第一條但書第四條但書及第五條ニ背戻スルモノハ壹圓以上貳拾五圓以下ノ罰金若クハ壹日以上貳拾五日以下ノ禁獄ヲ科シ又ハ罰金禁獄ヲ併セ科スヘシ

第七條 右ノ罰則ヲ五年以内ニ再犯スルモノハ其本罰ノ最多限ニ貳倍スルマテノ罰ヲ科シ三犯スルモノハ本罰ノ最多限ニ三倍スルマテノ罰ヲ科スヘシ

○番股野
外一番孫

本按ノ來由ハ更ニ多辯ヲ用ヒスシテ其意判然タルモノトス抑明治十年第二十號布告ノ毒藥劇藥取締規則ニ贋敗品取締ノ一法ヲ加ヘ之ヲ一般ニ施行アリシニ現今ニ至リ既ニ司藥場ノ設ケアリ從テ検査法モ備リタリト雖モ彼ノ贋敗品ノ多キヤ又多キヲ加ヘ百中ノ六七ハ悉ク然ルニ由リ當局者ヨリ更ニ其取締規則ヲ設

ケテ布告アランコヲ稟請シ且其取締モ從來ノ如キ毒藥劇藥ノ二様ノミニテハ尙ホ弊害ヲ生スルノ懼アルカ故ニ此ニ注意藥ナル一類ヲ掲ケ其名數ヲ増加シ之ヲ三別シテ以テ事ニ支牾ナカランコヲ欲スルナリ

○八番大給 藥品取扱規則ノ起因ハ今内閣委員ノ辯明ニヨリ了詳シ別ニ質疑ヲ要セスト雖モ藥品ノ類別ニ於テ稍々了解シ難キ所アリ夫ノ十年第二十號布告モ素ヨリ其主任者ノ査定セシモノナルニ本按ハ更ニ其不足ヲ補フ所ノ取締法ナリトセハ一層善良ナル法案タルヘシト雖モ彼此相比照スルニ彼ノ毒藥部分ニ掲載セシ藥名ヲ取テ此ニ劇藥部ニ轉入シタルハ何ノ故ナルヤ苟モ前ニ毒藥タレハ今モ亦毒藥タルハ論ヲ待タスシテ劇ト毒トハ自ラ異同ナカルヘカラ

サルモノト信ス因テ一應ノ辯明ヲ望ム

○番一 番 野 渾テ藥石ニハ同種異名ノモノアリ本按ハ各主任者アリテ三藥ノ部類ヲ區別シタルモノナレハ固ヨリ至當間然ナキモトス且其藥質ノ辯明ニ至リテハ本員其責ニ任スル能ハサルナリ

○八番大給 内閣委員ハ醫員ニ非サレハ之ヲ知ラサルハ肯テ咎ムルニ足ラスト雖モ苟モ彼ニ毒藥ト稱スルヲ更ニ劇藥トシテ發令スルトキハ看ル者果シテ毒藥部ノ範圍ヲ脫スルモノト見做スノ懼レアリ該按ハ乃チ衛生局ノ調査ニ係リタルナルヘシト雖モ今内閣委員ノ答辯ニ於テハ復タ不十分ト云サルヘカラス因テ益々其理由ヲ調査センコヲ欲ス

○議長 別ニ發議ナキヲ以テ第一讀會ハ爰ニ訖ル散會スヘシ

午前第十時五分閉場

元老院會議筆記明治十二年十月廿七日

○第百五十八號議按藥品取扱規則第二讀會

議長熾仁親王

出席議員

一番	東久世通禧
二番	水本 成美
三番	伊集院兼寛
四番	福羽 美靜
五番	秋月 種樹
六番	大久保一翁
九番	黑田 清綱

午前第十時十五分開場

内閣委員番外 一番 太政官少書記官 殿野 琢

十一番 山口 尙芳

十二番 河野 敏鎌

十五番 津田 眞道

十七番 楠田 英世

十九番 河田 景與

二十番 佐野 常民

廿一番 岩下 方平

廿五番 田中不二磨

廿六番 伊丹 重賢

○議長 本日ハ第五百五十八號議案第二讀會ヲ開ク例ニ遵ヒ發議スヘ

書記官戸田 秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

布告按

藥品取扱規則左ノ通相定來ル 月 日ヨリ施行シ明治十年二月第二

十號布告毒藥劇藥取扱規則ハ右同日限相廢候條此旨布告候事

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本按ヲ可トスル者ハ起立スヘシ
起立者十五人

○議長 多數ニ由リ本按ニ決ス

書記官戸田 秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

藥品取扱規則

第一條 凡ノ藥品中最注意シテ精選スヘキモノヲ第一類トシ其性
 効峻烈ニシテ僅少ノ分量ト雖モ直チニ生命ヲ傷害スルニ足ルヘ
 キモノヲ第二類^{毒藥}トシ其性効第二類ノ如ク峻烈ナラサルモ用量
 ニ因テ容易ニ危害ヲ來スヘキモノヲ第三類^{劇藥}トス其類目別表ノ
 如シ

但新タニ發見及ヒ舶齋シタル藥品ハ先ツ最寄司藥場ニ出シ
 テ試験ヲ受ケ其告示スル所ニ從フヘシ

○議長 發議ナシ本按ヲ可トスルモノハ起立ス可シ
 全員悉起立

○議長 全會一致ニ由リ本按ニ決ス
 書記官^{戸田秋成} 左ノ按ヲ朗讀ス

第二條 第一類藥品ハ其性効ノ緩劇ニ拘ハラヌ若シ精良ナラサル

トキハ醫師ノ目的ヲ誤リ以テ人命ヲ危フスルカ故ニ其粗製品^{故意}
 ノニ危物ヲ混シタルニアラス全ク化學製造上或ハ採收ハ之ヲ藥用
 ノ際其法疎漏ニシテ純精ナラサルモノハ類ヲ云フ
 トシテ販賣スヘカラス

但藥舖ニ於テ自ラ其良否ヲ鑑別シ能ハサルトキハ最寄司藥
 場ニ請ヒ無費ニテ其試験ヲ受クルコトヲ得

○議長 發議ナシ本按ヲ可トスルモノハ起立ス可シ
 全員悉起立

○議長 全會一致ニ由リ本按ニ決ス
 書記官^{戸田秋成} 左ノ按ヲ朗讀ス

第三條 第一類中ノ粗製品ニシテ藥用ト爲スヘカラサルモノト雖

モ仍ホ學術上工職上等ノ用ニ供スルニ足ルモノハ粗製ノ字ヲ其器ニ明記シ非藥用トシテ之ヲ販賣スルコトヲ得

○議長 發議ナシ本按ヲ可トスルモノハ起立ス可シ
起立者拾五人

○議長 多數ニ由リ本按ニ決ス

書記官 戸田 秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

第四條 第二類 毒藥 第三類 劇藥 ノ藥品ハ醫師ノ處方書ニ據テ調合スルノ外醫師藥舖化學者製藥者工職者等ヨリ品名量數需用ノ目的年月日及ヒ住所姓名ヲ詳記シタル証書ヲ以テスルニアラサレハ決シテ販賣或ハ授與スヘカラス

但証書處方書ハ之ヲ保存シ臨時ノ點檢ニ供スヘシ且本條ノ

手續ニ依ルモノト雖モ幼稚ノモノ其他不安心ト認ムルモノニハ一切交付スヘカラス

○議長 發議ナシ本按ヲ可トスル者ハ起立ス可シ
全員悉起立

○議長 全會一致ニ由リ本按ニ決ス

書記官 戸田 秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

第五條 第二類第三類ノ藥品ヲ販賣スルトキハ其器若クハ包紙ヘ必ラス普通ノ名稱ヲ記シ且第二類ハ毒ノ字第三類ハ劇ノ字ヲ明書スヘシ

但醫師ノ處方書ニ據ラスシテ封緘ヲ開キタル第二類第三類ノ藥品ヲ小賣若クハ授與スルトキハ本文ノ外更ニ適應ノ器

ニ入レ密封封印スヘシ

○議長 發議ナシ本按ヲ可トスルモノハ起立ス可シ

全員悉起立

○議長 全會一致ニ由リ本按ニ決ス

書記官 戸田 秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

第六條 第二條第四條本文ニ背戻シ又ハ贋敗品 贋品トハ故意ニ他合シテ其容量重量ヲ増スモノ若クハ他ノ物品ヲ以テ本品ニ擬シ或ハ名箋ヲ變換スルモノ、類ヲ云ヒ敗品トハ總テ酸敗風化或ハ潮解シ若クハ黴誤ヲ生シ陳敗ニ傾ク等ニ因リ其藥品本ヲ販賣ス性ノ効力ヲ變シ或ハ其効力ヲ失スルモノ、類ヲ云フ 販賣スルモノハ其贋敗品ヲ没入シ三拾圓以上貳百圓以下ノ罰金若クハ三拾日以上貳百日以下ノ禁獄第一條但書第四條但書及第五條ニ背戻スルモノハ壹圓以上貳拾五圓以下ノ罰金若クハ壹日以上貳

拾五日以下ノ禁獄ヲ科シ又ハ罰金禁獄ヲ併セ科スヘシ

○議長 發議ナシ本按ヲ可トスル者ハ起立ス可シ

起立者十五人

○議長 多數ニ由リ本按ニ決ス

書記官 戸田 秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

第七條 右ノ罰則ヲ五年以内ニ再犯スルモノハ其本罰ノ最上限ニ貳倍スルマテノ罰ヲ科シ三犯スルモノハ本罰ノ最上限ニ三倍スルマテノ罰ヲ科スヘシ

○議長 發議ナシ本按ヲ可トスル者ハ起立ス可シ

起立者拾四人

○議長 多數ニ由リ本按ニ決シ第一類以下ハ朗讀ヲ省キ決ヲ取ント

ス本按ヲ可トスル者ハ起立スヘシ

全員悉起立

○議長 第一類以下モ全會一致ナルヲ以テ悉ク本按ニ決シ第二讀會
ハ茲ニ訖リ來ル三十日第三讀會ヲ開カン散會セヨ

午前第十時二十五分閉場

元老院會議筆記明治十二年十月三十日

○第百五十八號議按 藥品取扱規則 第三讀會

議長 河野敏錄
代理

出席議員

- | | |
|-----|-------|
| 一番 | 東久世通禧 |
| 三番 | 伊集院兼寛 |
| 四番 | 福羽 美靜 |
| 五番 | 秋月 種樹 |
| 八番 | 大給 恒 |
| 九番 | 黒田 清綱 |
| 十一番 | 山口 尙芳 |

- 十五番 津田 眞道
- 十九番 河田 景與
- 二十番 佐野 常民
- 廿一番 岩下 方平
- 廿三番 柳原 前光
- 廿五番 田中不二齋
- 廿六番 伊丹 重賢
- 廿七番 河瀬 眞孝

内閣委員番外 太政官少書記官 股野 琢

午前第九時四十五分開場

○議長 本日ハ第五百五十八號議案第三讀會ヲ開ク例ニ遵ヒ發議スヘ

シ

書記官戸田 秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

布告按

藥品取扱規則左ノ通相定來ル 月 日ヨリ施行シ明治十年二月第二十號布告毒藥劇藥取扱規則ハ右同日限相廢候條此旨布告候事

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラシ本按ヲ可トスル者ハ起立ス可シ 全員悉起立

○議長 全會一致ニ由リ本按ニ決ス

書記官戸田 秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

藥品取扱規則

第一條 凡ソ藥品中最注意シテ精選スヘキモノヲ第一類トシ其性

効峻烈ニシテ僅少ノ分量ト雖_レ直チニ生命ヲ傷害スルニ足ルヘ
キモノヲ第二類_毒トシ其性効第二類ノ如ク峻烈ナラサルモ用量
ニ因テ容易ニ危害ヲ來スヘキモノヲ第三類_劇トス其類目別表ノ
如シ

但シ新タニ發見及ヒ舶齋シタル藥品ハ先ツ最寄司藥場ニ出
シテ試験ヲ受ケ其告示スル所ニ從フヘシ

○議長 本按ヲ可トスル者ハ起立ス可シ
全員悉起立

○議長 全會一致ニ由リ本按ニ決ス
書記官_{戸田秋成} 左ノ按ヲ朗讀ス

第二條 第一類藥品ハ其性効ノ緩劇ニ拘ハラヌ若シ精良ナラサル

トキハ醫師ノ目的ヲ誤リ以テ人命ヲ危フスルカ故ニ其粗製品_{故意}
ニ他物ヲ混シタルニアラス全ク化學製造上或ハ採收ハ之ヲ藥用
ノ際其法疎漏ニシテ純精ナラサルモノハ類ヲ云フ
トシテ販賣スヘカラス

但藥舖ニ於テ自ラ其真否ヲ鑑別シ能ハサルハ最寄司藥場
ニ請ヒ無費ニテ其試験ヲ受クルヲ得

○廿三番_{柳原前光} 本條中僅々文字ノ修正ヲ加ヘ醫藥ニ用ルモノハ其性
効精良ナラサルヘカラサルヲ以テ之ヲ藥用トシテトアル之ヲノ下
ニ内用ノ二字ヲ添加セント欲ス

○廿番_{佐野常民} 賛成

○廿六番_{伊丹重賢} 賛成

○四番_{福羽美靜} 賛成

○一番 東久世 通禎 賛成

○十九番 河田 景與 賛成

○議長 廿三番ノ修正ニ定規ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取シ廿三番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立スヘシ

起立者七人

○議長 少數ニ由リ廿三番ノ修正説ハ消滅ス即チ本按ニ決ス

書記官 戸田 秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

第三條 第一類中ノ粗製品ニシテ藥用ト爲スヘカラサルモノト雖
凡仍ホ學術上工職上等ノ用ニ供スルニ足ルモノハ粗製ノ字ヲ其
器ニ明記シ非藥用トシテ之ヲ販賣スルコトヲ得

○廿三番 柳原 前光 本條ニモ亦修正ヲ加ントス工職上ノ下ニ外[○]用[○]醫[○]藥[○]ノ

四字ヲ加エ外用醫藥等ニ用ユルニ足ル云々トシ第一類中云々粗製
品ニシテノ下ナル藥用ト爲スヘカラサルモノト雖^凡十五字ヲ削
除センコトヲ欲ス

○二十番 佐野 常民 廿三番ノ修正説ハ最モ可ナルニ似タリ但念ノ爲メ今
一應朗讀アラシメテ望ム

○廿三番 柳原 前光 工職上ノ下ニ外[○]用[○]醫[○]藥[○]ノ四字ヲ加ヘ外用醫藥等ニ用
ユルニ足ル云々トシ第一類中云々粗製品ニシテノ下ナル藥用ト爲
スヘカラサルモノト雖^凡十五字ヲ削除セント欲スルナリ

○廿番 佐野 常民 賛成ス其外科ニハ粗製品ヲ供用スルモ内用ニテハ之ヲ
供用セス故ニ此修正ニハ同意セサルヲ得サルナリ

○一番 東久世 通禧 賛成

○十九番 河田 景典 賛成

○四番 福羽 美静 賛成

○廿六番 伊丹 重賢 賛成

○議長 廿三番ノ修正ハ定規ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○外一番 股野 珠 廿三番ノ修正モ外科醫藥ニ用ントスルトノ主意ニシ

テ原案ノ精神ヲ失セス而シテ全ク内藥ノ區別ヲ立ルモノナレハ委員ニ於テモ不可ナシトス

○廿番 佐野 常民 内用及外科藥ノ文字ヲ用ヒ之ヲ分別セサレハ或ハ傷害

ナキヲ保ツ能ハス故ニ本修正ハ適當ナリト思惟ス

○十一番 山口 尙芳 本官亦修正案ヲ賛成ス何トナレハ原案ハ第二條ニ藥

用トシ頒賣スヘカラストノ主旨ニ反對シ却テ疑惑ヲ生スルノ恐れアレハナリ然ルニ廿三番ノ修正按ハ充分ニ之ヲ説明スルノ意ヲ包含シ又ハ外科藥用ニ足ルモノト作ルトキハ或ハ内藥トシテ頒賣スヘカラストノ嚴則ニ餘地ヲ與ルニ似タリト雖モ苟モ外科ニシテ良藥ヲ用ルハ何ノ不可ナキカ故ニ之ヲ用ヒシムレハ益アリテ害ナシトス即チ嚴則中ニ餘裕ヲ與ヘ功能アルモノハ用フヘシトノ主意ナレハ之ヲ可トスルナリ

○廿三番 柳原 前光 第二條ノ修正ハ己ニ廢棄セラレシカ本條ノ修正説行

ル、ニ及ンテハ猶第二條中内藥ノ二字ヲ加ヘサレハ首尾照應セサルカ如シ因テ確定ノ決議ニ於テ更ニ修正説ヲ發シ倘シ定規ノ賛成ヲ得ハ同ク並ヒ行ナハレンコトヲ望ム故ニ豫メ之ヲ陳スルナリ

○議長 廿三番修正ノ決ヲ取ラン之ヲ可トスル者ハ起立スヘシ
起立者九人

○議長 多數ニ由リ廿三番ノ修正ニ決ス

書記官 戸田 秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

第四條 第二類 毒藥 第三類 劇藥 藥品ハ醫師ノ處方書ニ據テ調合スル
ノ外醫師藥舖化學者製藥者工職者等ヨリ品名量數需用ノ目的年
月日及ヒ住所姓名ヲ詳記シタル證書ヲ以テスルニアラサレハ決
シテ販賣或ハ授與スヘカラス

但證書處方書ハ之ヲ保存シ臨時ノ點檢ニ供スヘシ且本條ノ
手續ニ依ルモノト雖モ幼稚ノモノ其他不安心ト認ムルモノ
ニハ一切交付スヘカラス

○議長 發議ナシ本按ヲ可トスル者ハ起立ス可シ

全員悉起立

○議長 全會一致ニ由リ本按ニ決ス

書記官 戸田 秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

第五條 第二類第三類ノ藥品ヲ販賣スルトキハ其器若クハ包紙ヘ
必ラス普通ノ名稱ヲ記シ且第二類ハ毒ノ字第三類ハ劇ノ字ヲ明
書スヘシ

但醫師ノ處方書ニ據ラスシテ封緘ヲ開キタル第二類第三類
ノ藥品ヲ小賣若クハ授與スルトキハ本文ノ外更ニ適應ノ器
ニ入レ密閉封印スヘシ

○議長 發議ナシ本按ヲ可トスル者ハ起立ス可シ

全員悉起立

○議長 全會一致ニ由リ本按ニ決ス

書記官 戸田 秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

第六條

第二條第四條本文ニ背戻シ又ハ贋敗品贋品トハ故意ニ他物品ヲ本品ニ混

合シテ其容量重量ヲ増スモノ若クハ他ノ物品ヲ以テ本品ニ擬シ或ハ名箋ヲ變換スルモノノ類ヲ云ヒ敗品トハ總テ酸敗風化或ハ潮解シ若クハ黴爛ヲ生シ陳敗ニ傾ク等ニ因リ其藥品本ヲ販賣ス性ノ効力ヲ變シ或ハ其効力ヲ失スルモノノ類ヲ云フ

ルモノハ其贋敗品ヲ没入シ三拾圓以上貳百圓以下ノ罰金若クハ

三拾日以上貳百日以下ノ禁獄第一條但書第四條但書及第五條ニ

背戻スルモノハ壹圓以上貳拾五圓以下ノ罰金若クハ壹日以上貳

拾五日以下ノ禁獄ヲ科シ又ハ罰金禁獄ヲ併セ科スヘシ

○廿三番 柳原 前光

本條ニモ修正ヲ加ントス一ハ文字ノ整頓ニシテ一ハ

罰則ノ權衡ナリ先ツ文字ノ整頓ヲ論センニ本條贋敗品ノ註釋ヲ合

一シタルハ太々明瞭ナラス故ニ贋品及敗品ノ下ニ各註釋ヲ分記シ

即チ贋品贋品トハ故意云々敗品敗品トハ總テ酸敗云々ト作ラント

ス又此罰金ハ他ノ比例ヲ取リテ査定シタルト云フニ恐クハ否ラサ

ルヘシ已ニ賣藥規則第廿五條ニ私ニ有毒藥ヲ配伍スル者云々ハ罰

金貳百圓以上五百圓以下トアレハ本條ノ三十圓以上ノ下貳百圓ハ

五百圓ニ作り其禁獄ハ國事犯或ハ新聞條例讒謗律等ノ犯罪者ノミ

ニ之ヲ處スルモ其殆ト稀ニシテ多クハ懲役ニ處スルヲ以テ例ト

ス故ニ禁獄ハ懲役ニ改メントス而シテ三十圓以上五百圓以下トノ

罰金ノ權衡ハ三十日以上二百日以下トノ其當ヲ得サルヲ以テ三十

日ヲ一月ニ二百日ヲ一年半ニ改作スルヲ可トス是管ニ第五條ノミ

ニアラス其第三條ニモ關スレハ第五條ノ上第三條ノ三字ヲ加フ可
シ此ノ如キハ修正繁雜ノ恐アルカ如シト雖モ究竟文字ノ修正ニ過
キス殊ニ禁獄ハ新聞條例及讒謗律ノ犯則者ニ止ルヲ以テ本按ニハ
穩當ナラストシ旁之ヲ修正セント欲スルナリ

○廿番佐野常民 廿三番ノ修正ハ妥當ナリ贗敗品ノ如キハ各自之ヲ注意
シテ區別セサルヘカラサルモノタリ且罰金モ他ノ罰則ト均一ナラ
サルヘカラサレハ其禁獄ヲ懲役ニ作ルハ固ヨリ其所ナリ三項ノ修
正渾テ公平ヲ得タルモノト信ス

○十九番河田景典 賛成

○五番秋月種樹 賛成

○一番東久世通禮 賛成

○四番福羽美靜 賛成

○議長 五名ノ賛成者アルヲ以テ廿三番ノ修正說ヲ問題ト爲ス

○十一番山口尙芳 廿三番ノ修正ヲ賛成ス其所以ハ本按ノ罰則ハ新聞紙
條例讒謗律等ノ二百圓ニハ比セスシテ凡テ嚴酷ヲ主トスルモノナ
リ若シ第一類中ノ毒藥ヲ誤劑スルカ如キハ忽チ毒殺ノ懼レアリ故
ニ仮令醫師ノ處方書ニ托シテ之ヲ配伍セシムルモ尙且危險ヲ免カ
レ難ク太シキ大事ヲ惹起セサルヲ保ツ能ハス因テ新聞條例讒謗律
ヨリ更ニ重罰トシ他ニ權衡ヲ取ルヲ可トス廿三番ノ修正ハ或ハ酌
量ニ過タルカト思惟スト雖モ之ヲ原按ニ比較スレハ相勝ルヲ遙ナ
リトス

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ廿三番修正說ノ決ヲ取ラン之ヲ可トス

ル者ハ起立スヘシ

起立者拾三人

○議長 多數ニ由リ廿三番ノ修正ニ決ス

書記官 戸田秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

第七條 右ノ罰則ヲ五年以内ニ再犯スルモノハ其本罰ノ最多限ニ

貳倍スルマテノ罰ヲ科シ三犯スルモノハ本罰ノ最多限ニ三倍ス
ルマテノ罰ヲ科スヘシ

○廿三番 柳原前光 本條モ修正セントス其五年以内ト境界ヲ立ルハ將タ

何ノ理由ナルヤ太タ法律ノ嫌ヒアリ故ニ此四字ハ斷然削除スヘシ

○廿番 佐野常民 賛成ス如何トナレハ原按ニテハ五年ヲ經過スレハ最早

忘却スルモ不可ナキモノト認ムルヲ得苟モ一旦罪ヲ犯シ社會ヲ害

スルモノハ到底其罪憎ム可シ之ヲ懲戒スル蓋シ刑律ノ原則ナリ故
ニ五年以内ト期定シタルハ理性ニ背馳スルヲ以テ宜ク之ヲ削除ス
可シ

○八番 大給恒 賛成

○廿六番 伊丹重賢 賛成

○三番 伊集院兼寛 賛成

○九番 黒田清綱 賛成

○議長 五名ノ賛成者アルヲ以テ廿三番ノ修正説ヲ問題ト爲ス

○外一番 股野琢 本條ニ五年以内トアルヲ以テ廿三番等ハ直ニ犯罪消

滅スト見做スハ最モ解シ難シ抑此犯觸タル固ヨリ彼窃盜ノ如キト

同一視セサルヲ知ルヘシ且第四條以下ハ多ク過誤ニ失シ全ク故意

ニ出ルモノハ鮮少ナリ已ニ是過誤ニシテ盜賊ト等シカラス故ニ其將來ヲ誠慎スルニ止マルヲ以テ之ヲ處スルニ五年ヲ限ルハ何ノ不可カ之レアラン本按ハ殆ト嚴科ニシテ五年以内ニ再犯スルモノハ三十圓ヲ再科スト云ハスシテ二倍ノ罰金ニ科ストアレハ之ヲ修正セサルモ敢テ妨ケナキナリ

○廿一番 岩下 方平 内閣委員ノ辯明ハ明瞭ナリト雖モ其最多限ニ止ラサル所以ハ蓋シ是竊盜ノ比ニアラスシテ過誤ナリ已ニ過誤ニ涉レハ人命ヲ傷害スルヲ免レサルナリ假令醫ヲ以テ業ト爲スモノト雖モ亦過誤ナキヲ得ス因テ賣藥者ハ其處方書ニ托ヲシムルモ猶注意ヲ主トセンカ爲メニ八年限ナキヲ可トス

○外一番 股野 琢 各議官ニ向テ一應ノ説明ヲナサントス

○議長 第三讀會ニハ内閣委員ノ説明ヲ要スル時機ニアラサレハ之ヲ許サス

○十一番 山口 尙芳 廿三番ノ修正說ヲ贊成ス第一類ハ第二條ノ明文ノ如ク素ヨリ其免許ヲ得サルヘカラス且漸次新發明ノ藥品ヲ舶齋スルカ故ニ司藥場ヲ設ケ試験ヲ經セシメントスルモ尙ホ鑒別シ難キモノアリ然ルニ特ニ之ヲ頒賣スルハ過誤ニアラスシテ乃チ故意ナリ其他第三條ニ粗製品ト査定シタルモノハ粗製ノ文字ヲ貼付スト雖モ是亦棄失ヨリ過誤ナキ能ハス此ノ如キハ第一ニ刑罪上ニ關スルヲ以テ其容易ニ過誤ナシトスルモ已ニ棄失ト見レハ司藥場ノ鑒別ヲ乞フハ當然ノコナリ第四條ニ醫師ノ處方書ニ托リ配伍スルノ外ハ配伍スヘカラストアレト證書ヲ確認セスシテ配伍ヲナスカ如キ

ハ過誤タリトシテ恕スヘカラス第五條ニ販賣ニ方リ容器或ハ包紙ヲ開緘シタルトキハ緘封セサルヘカラスト掲クルモ是亦過誤ナキヲ保チ難シ凡此等ノ項ハ嚴ニ罰金ヲ受クト告示セサレハ其過誤ニ失スル者稀少ニシテ故意ニ出ルモノ夥多ナラン到底五年以内ノ四字ハ削ラサル可ラス

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン廿三番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立スヘシ

起立者十三人

○議長 多數ナルヲ以テ廿三番ノ修正ニ決ス

○議長 第一類以下ハ例ニ倣ヒ朗讀ヲ省ク直ニ發議スヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン原按ヲ可トスル者ハ起立スヘシ

全員悉起立

○議長 全會一致ヲ以テ原按ニ決シ第三讀會ハ茲ニ訖リタルヲ以テ猶確定決議ハ期日ヲ定メテ報告スヘシ

○廿三番 柳原前光 本官前ニ豫メ陳述セシ如ク第二條ノ修正說ハ廢棄トナリタルモ第三條ノ修正ハ既ニ可決スル所トナル然ルニ第二條修正說ノ如キハ即チ第三條ト相照應スルモノナレハ彼ヲ是トシ此ヲ非トスルノ理由アルヲ看出ス能ハス是必竟其意ノ滿場ニ貫徹セサルニ坐スルナラン因テ別ニ確定ノ期日ヲ要セス直ニ第二條ハ修正說ノ如ク改刪アラシムヲ望ム

○議長 廿三番ハ直ニ確定決議センヲ望ムモノカ或ハ第二條修正ノ決ノミヲ望ムノ意ナルカ

○廿三番柳原前光 第三條ハ已ニ本官ノ修正ニ決シタレハ第二條モ亦前
說ノ如ク修正セサルヲ得ス故ニ之ヲ改正アラント望ムノ主意ナ
リ

○議長 然ラハ廿三番ノ陳述ヲ以テ決ヲ取ルヘシ

○廿番佐野常民 二十三番ノ建言ハ簡易ナリト雖モ其意明晰タリ之ヲ要
スルニ第二條ヲ修正セスシテ第三條以下ヲ修正セシハ不都合ナリ
然レモ確定決議ノ際ニ混雜ヲ生スルヲ恐ル、ヲ以テ茲ニ發議セサ
ルヲ得ス望ラクハ第二條モ自說ノ如ク直ニ修正アラントヲト云ノ
旨意ナリ

○廿三番柳原前光 廿番ノ發言ニ由リ本官ノ意ヲ明瞭ニ達セリ

○議長 廿三番ノ建議ハ一ノ意見ヲ陳述スルニモアラス即特別建議

ト認ルヲ以テ議長ハ之ヲ採用セス本則ニヨリ更ニ確定決議ノ期日
ヲ報告スヘシ散會セヨ

午前第十一時七分閉場

元老院會議筆記明治十二年十一月四日

○第百五十八號議按藥品取扱規則確定決議會

議長 河野敏錄
代理

出席議員

- | | |
|-----|-------|
| 一番 | 東久世通禧 |
| 二番 | 水本 成美 |
| 四番 | 福羽 美靜 |
| 五番 | 秋月 種樹 |
| 六番 | 大久保一翁 |
| 九番 | 黑田 清綱 |
| 十一番 | 山口 尙芳 |

午前第九時五十分開場

内閣委員番外 一番 太政官少書記官 股野 琢

十二番 河野 敏鎌

十四番 中島 信行

十五番 津田 眞道

十七番 楠田 英世

十九番 河田 景與

廿一番 岩下 方平

廿三番 柳原 前光

廿六番 伊丹 重賢

廿七番 河瀬 眞孝

○議長 讀會規則第十一條ニハ確定會議ノ明文アリト雖モ大抵畧例

ニ倣ヒ曾テ本則ニ據リ該會ヲ開キシコラス然ルニ該會已ニ確定

ト云ヘハ倘シ意見アラハ均ク第三讀會ノ例ニ準シ發議シ通規ノ賛

成者ヲ得ハ之ヲ問題ト爲スヘシ各位之ヲ了セヨ

書記官 戸田 秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

布告按

藥品取扱規則左ノ通相定來ル 月 日ヨリ施行シ明治十年二月第二

十號布告毒藥劇藥取扱規則ハ右同日限相廢候條此旨布告候事

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本按ヲ可トスル者ハ起立スヘシ

全員悉起立

○議長 全會一致ニ由リ本按ニ決ス

書記官 戸田 秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

藥品取扱規則

第一條 凡ソ藥品中最注意シテ精選スヘキモノヲ第一類トシ其性効峻烈ニシテ僅少ノ分量ト雖モ直チニ生命ヲ傷害スルニ足ルヘキモノヲ第二類毒藥トシ其性効第二類ノ如ク峻烈ナラサルモ用量ニ因テ容易ニ危害ヲ來スヘキモノヲ第三類劇藥トス其類目別表ノ如シ

但新タニ發見及ヒ舶齎シタル藥品ハ先ツ最寄司藥場ニ出シテ試験ヲ受ケ其告示スル所ニ從フヘシ

○廿三番 柳原前光 本條ニ僅々タル修正ヲ要ス第二類毒藥第三類劇藥トアリテ第一類ノミ其挿注ヲ脱セリ依テ第一類ノ下注意藥ノ三字ヲ挿注

トシテ補助スルトキハ休裁完全ナラント認ム仍テ修正說ヲ提供スル斯ノ如シ

○廿七番 河瀬眞孝 贊成

○一番 東久世通禱 贊成

○廿六番 伊丹重賢 贊成

○五番 秋月種樹 贊成

○四番 福羽美靜 贊成

○議長 成規ノ贊成者アリ二十三番ノ修正說ヲ問題ト爲ス

○議長 發議ナキヲ以テ二十三番修正說ノ決ヲ取ラン之ヲ可トスル者ハ起立スヘシ

起立者十一人

○議長 多數ニ由リ二十三番ノ修正ニ決ス

書記官 戸田秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

第二條 第一類藥品ハ其性効ノ緩劇ニ拘ハラス若シ精良ナラサル

トキハ醫師ノ目的ヲ誤リ以テ人命ヲ危フスルカ故ニ其粗製品ニ他物ヲ混シタルニアラス全ク化學製造上或ハ採收ノ際其法疎漏ニシテ純精ナラサルモノ、類ヲ云フハ之ヲ藥用トシテ販賣スヘカラス

但藥舖ニ於テ自ラ其良否ヲ鑑別シ能ハサルハ最寄司藥場ニ請ヒ無費ニテ其試験ヲ受クルコトヲ得

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本按ヲ可トスル者ハ起立スヘシ 全員悉起立

○議長 全會一致ヲ以テ本按ニ決ス

書記官 戸田秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

第三條 第一類中ノ粗製品ニシテ仍ホ學術上工職上外用醫藥等ノ用ニ供スルニ足ルモノハ粗製ノ字ヲ其器ニ明記シ非藥用トシテ之ヲ販賣スルコトヲ得

○廿三番 柳原前光 本條ノ修正ハ前會本官ノ提供スル所ニシテ已ニ採用ヲ得シモ猶或說ニ依レハ外用醫藥ノ四字ハ删除スルヲ可トスト本官之ヲ再思スルニ此說太タ是ナルカ如シ因テ更ニ削除アラシム

○一番 東入世通禎 賛成

○十九番 河田景與 賛成

○十四番 中島信行 賛成

○十五番 津田 贊成

○二番 水本 贊成

○議長 成規ノ賛成者アルヲ以テ二十三番ノ修正説ヲ問題ト爲ス

○外一番 股野 二十三番ノ發議ナル外用醫藥ノ四字ハ記載ニ及ハス

トノ説ハ委員ニ於テモ然リトス其故ハ粗製品ヲ内用藥トシテ頒賣セサルヲ以テ之ヲ削除スルモ固ヨリ不可ナケレハナリ

○議長 發議ナキヲ以テ二十三番ノ説ノ決ヲ取ラン之ヲ可トスル者ハ起立スヘシ

起立者十人

○議長 多數ニ由リ二十三番ノ修正ニ決ス

書記官 戸田 秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

第四條 第二類^{毒藥}第三類^{劇藥}藥品ハ醫師ノ處方書ニ據テ調合スル

ノ外醫師藥舖化學者製藥者工職者等ヨリ品名量數需用ノ目的年月日及ヒ住所姓名ヲ詳記シタル證書ヲ以テスルニアラサレハ決シテ販賣或ハ授與スヘカラス

但證書處方書ハ之ヲ保存シ臨時ノ點檢ニ供スヘシ且本條ノ手續ニ依ルモノト雖^凡幼稚ノモノ其他不安心ト認ムルモノニハ一切交付スヘカラス

○廿三番 柳原 本條又修正ヲ加ントス第二類及第三類ノ下ニ分注アリテ第一類ニハ之ヲ用ヒス因テ本條ノ分注ハ悉ク削ルニ若ストス

○廿一番 岩下 贊成

○一番 東久世 贊成

○十一番山口 賛成

○貳番水本 賛成

○廿七番河瀬 賛成

○議長 成規ノ賛成者アルヲ以テ二十三番ノ分注削除説ヲ問題ト爲ス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン二十三番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立スヘシ

起立者十人

○議長 多數ニ由リ廿三番ノ修正ニ決ス

書記官 戸田 秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

第五條 第二類第三類ノ藥品ヲ販賣スルトキハ其器若クハ包紙ヘ必ラス普通ノ名稱ヲ記シ且第二類ハ毒ノ字第三類ハ劇ノ字ヲ明

書スヘシ

但醫師ノ處方書ニ據ラスシテ封緘ヲ開キタル第二類第三類ノ藥品ヲ小賣若クハ授與スルトキハ本文ノ外更ニ適應ノ器ニ入レ密閉封印スヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本按ヲ可トスル者ハ起立スヘシ 全員悉起立

○議長 全會一致ニ依リ本按ニ決ス

書記官 戸田 秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

第六條 第二條第四條本文ニ背戻シ又ハ贋品 物品トハ故意ニ他ノテ其容量重量ヲ増スモノ若クハ他ノ物品ヲ以テ及敗品 敗品トハ本品ニ擬シ或ハ名箋ヲ變換スルモノ、類ヲ云フ 及敗品 總テ酸敗風化或ハ潮解シ若クハ微醜ヲ生シ陳敗ニ傾ク等ニ因リ其藥ヲ販賣品本性ノ効力ヲ變シ或ハ其効力ヲ失スルモノ、類ヲ云フ

賣スルモノハ其贖取品ヲ没入シ三拾圓以上五百圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年半以下ノ懲役第一條但書第四條但書及第三條第五條ニ背戻スルモノハ壹圓以上貳拾五圓以下ノ罰金若クハ一日以上貳拾五日以下ノ懲役ヲ科シ又ハ罰金懲役ヲ併セ科スヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本按ヲ可トスル者ハ起立スヘシ
起立者十三人

○議長 多數ニ由リ本按ニ決ス

書記官 戸田秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

第七條 右ノ罰則ヲ再犯スルモノハ其本罰ノ最多限ニ貳倍スルマテノ罰ヲ科シ三犯スルモノハ本罰ノ最多限ニ三倍スルマテノ罰ヲ科スヘシ

○廿三番 柳原前光 本條ニ僅々ノ修正ヲ加ントス五年以内ニ五字ハ前會已ニ削除ニ決セリ然ルニ本罰ノ最多限ニ貳倍ノ下スルマテ又三倍ノ下スルマテノ字句アリ是レ共ニ過ルト云フノ字義ナルヲ以テ素ヨリ不用ニ屬ス須ラク削除スヘシ但第六條ノ罰則ハ境界判然タルモ本條ノスルマテノ文字ハ太タ判然ナラス其境界判然タランヲ要セントセハ之ヲ削除スルヲ可トス

- 十九番 河田景與 賛成
- 九番 黒田清綱 賛成
- 廿六番 伊丹重賢 賛成
- 一番 東久世通禮 賛成
- 十五番 津田真道 賛成

○議長 定規ノ賛成者アルヲ以テ二十三番ノ修正説ヲ問題ト爲ス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン二十三番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立スヘシ

起立者九人

○議長 多數ニ依リ二十三番ノ修正ニ決シ第一類以下前例ニ遵ヒ朗讀ヲ省ク意見アラハ直ニ發議スヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ第一類以下ノ決ヲ取ラン本按ヲ可トスル者ハ起立スヘシ

全員悉起立

○議長 全會一致ニヨリ本按ニ決シ爰ニ確定ノ決議會ヲ畢ル

○廿三番柳原前光 第三讀會ニ修正アレハ確定決議會ヲ開クハ本則ナリ

然ルニ從來簡約ヲ主トシ曾テ本會ヲ開カス敢テ問フ本會又修正ノ條款アリ更ニ再ヒ確定決議會ヲ開カル、ヤ否

○議長 二十三番ノ説ニヨリ議長ハ併テ滿堂各位ニ之ヲ告ントス確定ノ決議會ハ如何ナル修正アルモ確定ノ決議トナシ再ヒ會議ヲ開クヲ須ヒサルヘシ然レモ本日ハ修正ノ有無ニ拘ハラズ確定ト認ムヘキヤ否ハ例ニ由リ衆議ニ問ハントス本案ヲ以テ確定決議トスルモノハ起立スヘシ

起立者十三人

○議長 多數ニ依リ確定ノ決議ヲ了ス例ニ遵ヒ上奏ス可シ

右畢テ月例ニ從ヒ議官番號ノ抽籤アリ

午前第十時十分閉場

元老院會議筆記明治十二年十月十五日

○第百五十九號議按銀行當座預リ金小切手へ檢視會

議長河野敏錄
代理

出席議官

- | | |
|----|-------|
| 一番 | 東久世通禧 |
| 二番 | 水本 成美 |
| 三番 | 伊集院兼寛 |
| 四番 | 福羽 美靜 |
| 五番 | 秋月 種樹 |
| 六番 | 大久保一翁 |
| 八番 | 大給 恒 |

- 九番 黒田 清綱
- 十四番 中島 信行
- 十五番 津田 眞道
- 十八番 津田 出
- 十九番 河田 景與
- 二十番 佐野 常民
- 廿一番 岩下 方平
- 廿二番 佐々木高行
- 廿三番 柳原 前光
- 廿四番 細川潤次郎
- 廿五番 田中不二磨

- 廿六番 伊丹 重賢
- 廿七番 河瀬 眞孝

午前第九時四十九分開場

○議長 第百五十九號議按ノ檢視會ヲ開ク備明ナラストセハ例ニ據
リ發議ス可シ

書記官 戸田 秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

本年八月第三十一號ヲ以テ布告候証券印稅規則追加中銀行當座預リ
金小切手ハ十月一日以後都テ稅印可相受ノ處來ル十三年六月三十
日限リ証券印紙交用候トモ不苦候條此旨布告候事

○議長 發議ナキヲ以テ本按ヲ可トスル者ハ起立セヨ
全員悉起立

○議長 全會一致異議ナク檢視ヲ經過セシ旨ヲ以テ例ニ遵ヒ上奏ス

○可シ散會セヨ

日 午前第九時五十二分閉場

金小四十八日一日

本半八三十一

...

...

...

...

...

...

元老院會議筆記明治十二年十月廿八日

○第百六拾號議案

萬國電信盟約ニ加入シ條
約書調印交換ノ儀布告 檢視會

議長 熾仁
親王

出席議員

一番 東久世通禧

三番 伊集院兼寛

四番 福羽 美靜

五番 秋月 種樹

六番 大久保一翁

九番 黒田 清綱

十一番 山口 尙芳

○議長 第百六十號議案ノ檢視會ヲ開ク備明ナラストセハ例ニ由リ

午前第十時開場

- 十二番 河野 敏謙
- 十五番 津田 眞道
- 十七番 楠田 英世
- 十九番 河田 景與
- 二十番 佐野 常民
- 廿一番 岩下 方平
- 廿三番 柳原 前光
- 廿六番 伊丹 重賢
- 廿七番 河瀬 眞孝

發言ス可シ

書記官 戸田 秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

本年一月露西亞國聖彼得爾堡ニ於テ萬國電信盟約ニ加入シ別冊條約書調印交換相濟候條此旨布告候事

萬國條約書

第一條

同盟各國ハ何人ヲ問ハス萬國聯合電信ノ方法ニ依テ通信スルノ權利アルコトヲ承認ス

第二條

同盟各國ハ通信ノ秘密且速達ヲ擔保スルカ爲メ必用ナル百般ノ處置ヲ爲スヘシ

第三條

然レトモ同盟各國ハ萬國電信取扱上ヨリ起ル一切ノ責ニ任セサルヘシ

第四條

同盟各國政府ハ通信ノ速達ヲ擔保スルニ十分ナル線數ヲ設備シ以テ特別ノ電線トナシ萬國電信ノ用ニ充ツヘシ
此特線ハ方今電機學經驗上ニ於テ發明セシ最良ノ方法ヲ以テ建設使用スヘシ

第五條

電信ヲ區分シテ左ノ三種トナス

第一 官報

即チ同盟國ノ首長大臣陸海軍將帥公使又ハ領事ノ通信ヲ云フ

第二 局報

即チ同盟國各電信局ヨリ出セル報信ニシテ萬國電信ノ處務ニ關シ或ハ各局協議ノ上國益トナルヘキ事件ニ關スル者ヲ云フ

第三 私報

傳送ハ總テ官報ヲ先ニシ他ノ報信ヲ後ニス

第六條

官報并ニ局報ハ隨時ニ暗號ヲ用テ報スルコトヲ得ヘシ
私報ハ暗號ヲ以テ贈答スルコトヲ許シタル兩國政府ノ間ノミニ於テ之ヲ送受スルヲ得ヘシ
暗號ヲ以テ書シタル通信ヲ認許セサル國ト雖モ第八條ニ云フ通信

停止ノ時ヲ除クノ外其私報ヲ傳送スルコトハ許スヘキモノトス

第七條

同盟各國ハ其國ノ治安ニ害アリ其國ノ法律若クハ風儀ニ悖ルモノト看認ル私報ハ其傳送ヲ差留ルノ權アリ

第八條

各國政府ニ於テハ期限ヲ定メス一時萬國電信ノ使用ヲ停止スルヲ必要ナリト思考スルトキハ其趣ヲ同盟國各政府ヘ報知シ管下總體ノ電線或ハ一部ノ電線又ハ音信ノ種類ヲ限リ之ヲ停止スルノ權アリ

第九條

同盟各國ハ音信ノ傳送及ヒ配達ヲ一層保全且便捷ニスル爲メ同盟

國電信各本局ニ於テ協議裁決シタル種々ノ方法ヲ以テ各出狀人ニ利益ヲ與ル事ヲ務ムヘシ
此各國中執レニテモ音信ノ傳送及ヒ配達ニツキ別殊ノ方法ヲ用ルコトヲ定メ之ヲ報知スルトキハ其成法ヲ以テ亦各出狀人ニ利益ヲ與フルコトヲ務ムヘシ

第十條

同盟各國ニ於テ萬國稅則ヲ制定スルニハ左ノ諸件ヲ標準トスヘシ
同盟各國孰レノ兩國間ノ局ニテモ同線路ヲ以テ送受スル諸音信ノ稅額ハ此彼同一タルヘシ而シテ此法ヲ施行スルニ當リ歐羅巴ニ於テハ一國ヲ二大區ニ區分スルヲ得ヘシ
稅額ハ首尾ノ政府ト中間ノ政府ト協議ノ上各國順次之ヲ定ムヘシ

同盟各國ノ間ニ送受スル音信ニ適用スヘキ稅額ハ何時タリトモ協
議ノ上之ヲ改革増減スルコトヲ得ヘシ

萬國稅則ヲ制定スルニ方テハヲ以テ貨幣ノ本位ト定ム

第十一條

同盟各國ノ萬國電信局務ニ關スル音信ハ其各國ノ諸線路ヲ悉ク無
稅ニテ傳送スヘシ

第十二條

同盟各國ハ互ニ其收稅ノ計算ヲ爲スヘシ

第十三條

此條約書ハ細目規則ヲ合セテ全備スル者トス而シテ該規則ノ條件
ハ同盟國各本局協議ノ上何時タリトモ之ヲ改正スルヲ得ヘシ

第十四條

細目規則中ニ云フ同盟國中各一政府下ニ置ク萬國電信事務局ハ萬
國電信ニ關スル諸般ノ報告ヲ集メ之ヲ整理出版シ稅則并ニ細目規
則ノ改正ヲ請求スル者アラハ其書ヲ同盟國各本局ニ回達シ而シテ
衆議一致シタル改正ノ件ヤヲ廣告シ且萬國電信ノ裨益トナルヘキ
諸項ヲ懇勉熟慮シテ之ヲ執行スル等ノ任ヲ受クルモノトス

此事務局ニ於テ庶務ヲ調理スル爲メ要スル費用ハ同盟國各本局ヨ

リ支給スヘシ

第十五條

第十條ニ云フ稅則及ヒ第十三條ニ云フ細目規則ハ此條約書ニ附屬
シタル者ニテ條約書ト同一ノ効ヲ有シ且同時ニ施行スヘキモノト

ス

右税則及ヒ細目規則ハ會議ノ上更改スルヲ得ヘシ其際ニ於テハ從來參與セシ各國皆之ニ會同スルヲ得ヘシ

此會議ハ定期毎ニ之ヲ開キ而シテ毎回其次會ノ期日并ニ場所ヲ定ムルモノトス

第十六條

此會議ハ同盟各國ノ諸本局ヨリ派出スル所ノ理事官ヲ以テ成立スヘキモノトス

會議ニ於テハ各本局ノ理事官數名アリトモ決議ノトキハ一人ヲ以テ算ス但一政府下ノ諸局ヨリシテ各此會議ニ列セント欲スルトキハ外國交際上ノ手續ヲ經テ期日前ニ其會議ヲ開クヘキ國ノ政府ヘ

照會シ各別ノ理事官ヲ派出セシムルトキハ此限ニアラス

右會議ニ於テ改正スル件ヤト雖モ同盟國各政府ノ批准ヲ經タル後

ニ非サレハ施行スヘカラス

第十七條

同盟各國ハ萬國一般ニ關係セサル事務上ノ點ニ就テハ各國各自諸般ノ約定ヲ爲スノ權ヲ有ス

第十八條

方今此條約ニ與ラサル國ト雖モ其請求ニ依リテハ之ニ加入スルコトヲ許スヘシ

右加入ハ會同ヲ開キシ國ヘ外國交際上ノ手續ヲ經テ照會スヘシ然ルトキハ該國ヨリ其他諸國ヘ之ヲ報知スヘキモノトス

加入セシ上ハ當然ニ此條約ニテ定メタル諸件ヲ行ヒ且衆益ヲ共ニ
スヘキモノトス

第十九條

此條約ニ加入セサル國々或ハ私立會社トシテ通信ハ此條約第十三條
ニ云フ所ノ規則ニ基キ愈進歩ノ通信方法ヲ以テ衆利ヲ圖リ之ヲ取
扱フヘシ

第二十條

此條約ハ歐曆一千八百七十六年一月一日ヨリ施行シ永久ニ遵守ス
ヘキモノトス若シ之ヲ廢棄セント欲スト雖モ其日ヨリ後一ケ年ヲ
過ルマテハ仍ホ遵守スヘシ
何レノ國ニ於テ此條約ヲ廢棄スルトモ其國ヲ除ク外他ノ同盟國

ニ於テハ依然之ヲ遵守スヘシ

第二十一條

今般ノ條約ハ同盟國各政府ノ批准ヲ得テ確定スヘキモノトス因テ
其定了シタル憑證ハ勉メテ速ニ比特堡府ニ於テ互ニ相交換スヘシ
右條件信證ノ爲メニ各國全權公使各其名ヲ手署シ且其印章ヲ鈴ス

- 日本國
- 日耳曼國
- 澳地利國
- 匈牙利國
- 白義國
- 丁抹國

元老院會議筆記明治十二年十月三十一日

○第百六拾壹號議案 徵兵令改 檢視會

議長 熾仁親王

出席議員 二十六番

- | | |
|----|-------|
| 一番 | 東久世通禧 |
| 二番 | 水本 成美 |
| 四番 | 福羽 美靜 |
| 五番 | 秋月 種樹 |
| 六番 | 大久保一翁 |
| 八番 | 大給 恒 |
| 九番 | 黑田 清綱 |

議事録

○議事

○議事

○議事

○議事

○議事

○議事

○議事

○議事

○議事

- | | |
|------|-------|
| 十一番 | 山口 尙芳 |
| 十二番 | 河野 敏鎌 |
| 十五番 | 津田 眞道 |
| 十九番 | 河田 景與 |
| 二十番 | 佐野 常民 |
| 二十一番 | 岩下 方平 |
| 二十三番 | 柳原 前光 |
| 二十六番 | 伊丹 重賢 |
| 二十七番 | 河瀬 眞孝 |

午前第九時四十分開場

○議長 本日ハ第百六十壹號議按ノ檢視會ヲ開ク然ルニ本按ハ曾テ

本院ノ議定ヲ經テ上奏セシニ尙ホ一二改竄シテ布告セシモノナレ
ハ爰ニ只其改竄セシ所ノミヲ朗讀セシメ他ハ之ヲ略スヘシ

書記官 戸田 秋成 左ノ按ヲ朗讀ス

第二條

第二項 強壯ニシテ技藝ニ熟シ行狀正キ者ハ在營六ヶ月ニシテ

近衛兵ニ拔擢シ更ニ三ヶ年ノ役ニ服セシメ役終ルノ後豫備軍

ニ編入シ二ヶ年六ヶ月ノ後後備軍ニ編入ス

但近衛兵編制ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第四項 技藝ニ熟シ且才氣アル者ハ之ヲ拔擢シテ下士ニ任ス

第八條 國民軍ハ全國ノ男子十七歳ヨリ四十歳迄ノ人員ヲ兵籍ニ

載セ置キ全國大舉ノ役アルニ當リ時機ニ從ヒ隊伍ニ編制シ以テ

守衛ニ充ル者ナリ

○十二番 河野 敏録 本官ハ此議按ニ對シ不備不明ナリト論スルモ畢竟其詮ナキヲ以テ更ニ之ヲ言ハス但別ニ大ニ感觸スル所アリ此感觸タル寔ニ云ヲ欲セサルモ如何セン云ハサルヲ得サルモノナリ想フニ各位モ亦同感ヲ發スルナラン抑々徵兵令改正ノ議按ノ本院ニ下付セラレタルハ實ニ本年六月廿三日ニアリ而シテ七月十日ヲ以テ第一讀會ヲ開キシヨリ以來十餘回ノ開議ヲ經過シ其修正ハ特ニ投票ヲ以テ五名ノ委員ヲ選ミ其暑中ノ休暇ニ論ナク内閣委員兩名ノ參席ヲ需メ委曲周到各位ヲシテ満足セシムヘキ修正報告ヲ得タリシ中ニ就キ第二條第二項近衛兵編入ノ件ノ如キハ至尊臨御ノ時ニ當リ全會一致ノ議ニ決セシモノニシテ其第四項ノ但書モ亦本官ノ動

議ヨリ出最初ハ瑣ヤノ駁議アリシモ遂ニ充分ナル賛成ヲ得テ之ヲ可決シ第八條國民軍ノトモ亦同シ然ルニ内閣ニ於テハ今朗讀セル如ク前ニ本院ノ否決スル所ヲ採テ條款ヲ改竄シ便宜布告ノ後檢視ニ付セラル、ニ至ルハ是何ノ意ソヤ實ニ痛癢ノ至リニ勝ス蓋シ本院條例中檢視會ナルモノアルヲ以テ曾テ亦此一例アリシ即チ虎列刺病豫防規則ノ議是ナリ元來檢視タルヤ先ツ布告シテ後會議ニ付スルコニシテ泰西諸國ニモ亦急施ヲ要スル者アレハ此例ニ由ルモノアリト雖モ彼ハ常ニ議院ヲ開カサルカ故ニ其閉院中ニ方リ至急ノ令ヲ施スニ至リテハ檢視モ亦已ムヲ得サルコトスルモ本院ノ如キハ常ニ開設スルヲ以テ此例ナキモ固ヨリ妨ケナキモノナリ良シヤ之アリトスルモ夫ノ徵兵令改正ノ如キハ決テ至急ノ事ナリトハ

云ヘカラス何トナレハ本按原稿ハ昨年十二月ヲ以テ法制局ニ廻付
シ殆ト半歳間ノ調査ヲ經本年六月ニ至リ始メテ本院ニ下付セラレ
タル者ナリ焉ソ其調査ニ寛ニシテ施行ニ急ナリト云フノ理アラ
ヤ獨リ奈何セン本院ハ彼酒田縣人森藤右衛門ノ事件ヨリ以來大ニ
其權力ヲ減殺セラレタレハ今ニシテ其急不急ノ字面ヲ論シ且明備
如何ノ議ニ涉ルモ到底已ニ改竄シテ布告セシ者ヲ挽回スルニ由ナ
シ故ニ本官ハ之ヲ既往ニ遡テ論辯スルヲ好マス只深ク將來ヲ戒慎
セント欲スルナリ之ヲ戒慎センニハ斷然檢視會ヲ廢スヘキノミ仍
テ本會ノ畢ルヲ待テ更ニ其意見ヲ縷陳セントス
○二十番^{佐野}_{常民} 本官モ亦十二番ノ説ト同シ而シテ檢視會ヲ廢スヘキ
ノ理由ハ已ニ其縷ヤノ辯ニ盡シタレハ之ヲ贅セス唯本官ノ他ニ感

觸セシモノヲ陳述セントス抑々本案ハ當初下付セラレテヨリ以來
内閣ノ意ノ在ル所ヲ窺フニ實ニ言ニ忍ヒサルモノアリ先ツ第二條
本則ニ徴兵ハ三年ノ役ニ服セシムト云テ忽チ其第二項ニハ在營六
ケ月ニシテ云ヤトアリ本則三年ノ外ニ猶ホ六ケ月ノ役ヲ延ハスハ
太タ法理ニ矛盾セルヲ以テ畏クモ主上臨御ノ場ニ於テ全會一致其
否ナルニ決定セリ然ルニ今ニ至リ反然此ノ如ク改竄セシハ其何ノ
意ナルヤ之ヲ解スル能ハス蓋シ假令理情ニ悖ルモ六ケ月ノ役ヲ延
サ、レハ近衛兵ノ不足ヲ生スルヲ恐ル、ヲ以テノ故カ又第四項ノ
但書ヲ刪除セシモ同シク強迫シテ之ニ任セサレハ下士ノ不足ヲ生
スルヲ恐ル、ノ意ナルヘシ且第十八條國民軍ノ章ニ國內云ヤノ眼
字ヲ刪除セルハ則チ國民軍ヲ驅テ外國ノ役ニモ服從セシメントス

ルノ意ニ過キサルヘシ要スルニ縱令法理ニ違ヒ民心ニ背クモ之ニ
關スルコトナク只法律以テ之ヲ制縛セントスルノ外ナキノミ夫レ本
官等初メ之ヲ修正セシモ獨リ法理ヲ專ラニシ其兵政ノ障碍ヲ生ス
ルモ肯テ關セストナセシニアラス乃チ能ク法理人情ヲ斟酌シ現今
ノ兵政ニ適應シ國家ノ用ニ欠サルコトヲ期シ以テ周密議到セシモノ
ナリ然ルニ堂々タル帝國二千五百萬ノ人民アリテ猶且僅々ノ兵員
ニ不足ヲ生スルヲ恐レ假令理情ニ反スルモ人ヲシテ榮譽ノ心ヲ生
セシメ自カラ奮進セシムルノ道ヲ開クヲ欲セス擅制壓抑之ヲ驅逐
シ政策宜ク斯ノ如シトナスハ實ニ悲痛ニ堪サルナリ往時武家ノ世
ヲ回顧スレハ其徒士足輕トナラント欲スル者モ猶巨額ノ金ヲ出シ
テ之ヲ請求セシニアラスヤ苟モ至尊ノ護衛タル近衛兵員ノ如キハ

其滿期歸郷ニ際シ別ニ應當ノ金圓ヲ給スルカ或ハ其榮譽トナスヘ
キモノヲ得セシムルノ方法ヲ設ケテ誘導スルニ至ラハ誰カ又之ヲ
厭苦スルモノアラシヤ是ヲ之レ爲サスシテ徒ニ擅制壓抑ノ法ヲ施
コサントスルハ豈法律ト稱スヘケンヤ豈人情ニ從フト云フ可シヤ
此ノ如キ國家重大ノ法律ニシテ猶且立法府ノ議定ヲ一朝ニ改竄シ
テ布告スルハ畢竟夫ノ檢視條例アルヲ以テナリ乃チ本官カ十二番
ノ建議ニ同意シ該例ヲ廢セントスル所以ナリ

○議長 本按ヲ不備不明ト認メサル者ハ起立セヨ

起立者十三人

○議長 多數ナルニヨリ本按檢視ヲ經シ旨ヲ以テ例ニ依リ奉還スヘ

シ

○十二番 河野敏録 本官別段ノ建議ヲ爲サントスルハ他ニ非ス抑々議按
ノ檢視ニ係ルモノハ本院之ヲ可否スルコトヲ得ス又修正ノ權ナクシ
テ唯其舊法ヲ書シ若クハ抵觸シ及ヒ一按中互ニ抵觸シ且不備不明
ナルモノアラハ之ヲ太政大臣ニ通牒スルニ止マリ苟モ之ヲ上奏改
正ヲ請フノ道ナク恰モ各省ノ書記生カ公文書ヲ補綴校合スルト一
般ノモノナリ夫レ今日ハ如何ナル時世ソヤ其法律ノ外何物カ以テ
人民ノ福祉ヲ增益スルヲ得ヘキ恭クモ我君上ハ夙ニ叡慮ヲ立憲ノ
政體ニ注カセラレ維新ノ始ヨリ今ニ至ルマテ廣ク衆議ニ取ルノ誓
言ハ終始一轍世運ハ漸ク立憲ノ地位ニ赴ケリ此時ニ方リ若シ情實
ト腕力トヲ以テ正理ニ背馳シ人情ニ悖戾セシ處分ヲ爲スカ如キハ
實ニ聖意ノ在ル所ニ反ス然ルニ行政官タルモノ往々之ニ由テ意ヲ

違フセントスルハ古今各國比々是ナリ人民ノ不幸豈之ニ由ラサル
者アラシヤ今夫レ我邦ニ於テ人民ノ福祉ヲ増サンカ爲メ法律ヲ維
持シ正理ヲ伸張シ彼ノ古今ノ弊害タル情實ト腕力トヲ牽掣スルヲ
得ルモノハ特リ我元老院ヲ除キテ復タ何レニ之ヲ求メントスルヤ
本官等乏キヲ立法官ニ承ケ致々職司ヲ怠ラサラント欲スルモ言一
次其權外ニ涉ラハ乃チ法律ヲ蔑如スルニ至ルヲ如何セン故ニ今日
ノ如キ檢視會ヲ開設スルモ實ニ其已ムヲ得サルニ出ルト雖モ夫ノ
檢視條例ナルモノハ只其行政府力急施ノ一便利ト爲スノミナラス
立法權モ亦併テ囊括スト云モ恐ラク誣ルニハアラサルヘシ夫レ是
ノ如キカ斷然之ヲ廢セサルヘカラス已ニ之ヲ廢セハ獨リ將來ノ法
律ヲ維持シ正理ヲ伸張セルニ止マラス明治政府ノ瑕瑾ヲ補フニ足

ルハ各議官モ亦同意ナルヲ信スルナリ是ヲ以テ前ニ取決ノ爲起立
セシ時ニ方リテハ本官實ニ其身體ノ重キヲ覺ヘタリ何トナレハ昨
日マテモ此ノ如クセサレハ法理ニ違フヘシ又彼ノ如クナサ、レハ
民心ニ背クヘシト苦心焦思ノ末稍ク各位ノ力ニ依リ完全ノ修正ヲ
得始テ其堵ニ安ンセシニ豈圖ランヤ俄然改竄内閣ノ前議ヲ皇張シ
苛法ヲ以テ三千五百萬人ノ頭上ヲ轟撃セシヲ以テナリ然ルニ本院
ノ意見ヲ上奏スルハ已ニ其手續アリト雖モ從來之ヲ上ルニ其採用
ナリタルハ概テ十中一二ニ過キスシテ他ハ惣テ之ヲ不問ニ措ケリ
故ニ今之カ意見ヲ上奏スルモ彼ノ尋常手續ヲ以テセハ其行ハルヘ
カラサルヤ鏡ヲ掛テ觀ルカ如シ如カステ例ヲ以テ之ヲ議長ニ請ヒ
議長親シク或ハ君上ニ或ハ内閣ニ緩急建議スルノ委曲懇到其行ハ

レ易カラニハ仍テ本官カ建議ノ決ヲ取ラレンニハ先ツ之ニ同意
ナレハ其請求ハ議長ニ托シテ之ヲ爲スヘキノ大意ヲ以テセラレン
トヲ望ム

○八番 大給 恒 本院章程第六條ニ檢視ヲ經ルニ暇アラサル者ハ便宜布
告ノ後檢視ニ付ストノ意ヲ掲ケタルヨリ遂ニ本按改竄ノ如キ實ニ
驚クヘキコトヲ惹起セリ但當初本院設立ノ際ニ方リテハ該會ノ如キ
或ハ止ムヲ得サルモ今ヤ百事進歩シ議會ノ體裁モ亦舊日ノ觀ニア
ラス殊ニ本院ハ常設ノ成規ナレハ所謂檢視ノ如キハ固ヨリ之ヲ廢
棄スヘキモノトス儻シ否ラスンハ立法官ノ勞ハ毎ニ徒勞ニ屬スヘ
シ廢期既ニ至レリ仍テ十二番ノ說ヲ贊成ス

○二十番 佐野 常民 十二番ノ建議ハ大ニ可ナリ本官曾テ二十三番議官等

ト共ニ布告式改正ノ意見書ヲ草シテ之上リシコアリ當時既ニ此
檢視會ヲ廢スルコトニ思及セシモ事多端ニ渉ルヲ以テ特ニ之ヲ論舉
セサリシナリ而シテ其論舉セサルモ所謂布告式ヲ改正セハ從テ檢
視會ノ如キハ令セシテ之ヲ廢スルニ至ルヲ以テナリ何トナレハ
其布告文ニ元老院ノ議定ヲ經テ布告スト記スルヲ以テ式法トナス
キハ法律ハ本院ノ決議ニ因テ定マルモノナルヲ明表スルモノナリ
故ニ人民ノ布告ヲ讀ム者ハ其議定ヲ經ルト或ハ檢視ヲ經ルトニ因
テ各其法律ノ力ニ輕重アルヲ見ルニ足レハナリ是ノ如クハ檢視
會ノ廢スルニ至ルハ自然ノ理勢ナリ然ルニ徵兵令ノ如キ已ニ至尊
臨御ノ時ニ方リ確乎議定セシモノヲ以テ忽チ改竄シテ檢視ニ付ス
ルニ至ルハ實ニ亦甚タシカラスマ今斷然之ヲ廢セスンハ當ニ本院

ノ體面ニ關スルノミナラス實ニ陛下ノ威德ヲ損シ千載歷史上ニ明
治政府ノ羞ヲ遺スニ至ルヘシ故ニ深ク十二番特別ノ建議ニ左祖ス
○十一番山口尙勞 本官モ亦十二番ノ建議ニ左祖ス凡物ニ經驗アリ當初
本院設立ノ際ニ當リテハ檢視會モ亦或ハ止ムヲ得サルニ出ルト雖
モ以來既ニ幾多ノ星霜ヲ積ミ議事ノ經驗モ亦大ニ著キ者アリ今ニ
シテ檢視會ハ獨リ無用ナルノミナラス却テ害アルモノトス夫レ天
下ノ耳目ヲ以テ耳目トシ天下ノ心ヲ以テ心トスルハ何レノ邦國何
レノ政體ヲ問ハスシテ皆是ナラサルハナシ我朝維新以來待詔院ヲ
設ケ彈正臺ヲ置ク皆是レ天下ノ耳目天下ノ心ヲ集合セシモノナリ
已ニシテ待詔彈正二衙門ヲ廢スト雖モ更ニ復タ我元老院ヲ設ケ立
法ノ府タラシム故ニ其法律ヲ議定スルニ方ツテヤ乃チ天下ノ耳目

ト天下ノ心ニ依ラサルヘカラサルナリ今檢視セシ徵兵令第二章第
二項ノ如キ本院議定ノ法理ニ反シ翻然之ヲ改竄スルハ將タ何トカ
云ハン本令兵役三ケ年ヲ以テ原則ト爲シ而シテ近衛兵ナリトテ更
ニ六ケ月ヲ加役スルハ何ノ理由アリテ然ルヤ本院苟モ天下ノ心ヲ
以テ心トシ理情相愜フノ議ニ決ス而シテ倏然斯ル苛法ヲ以テ天下
ニ布告スルニ至ルハ只彼檢視會ノ在ル有ルニ因レリ仍テ本官ハ大
ニ十二番ノ建議ヲ賛成ス此ノ如キハ誠ニ其職ニ在テハ正意ヲ貫徹
セサルヘカラサルモノトス

○議長 十二番ヨリ特別ノ建議アリ議長ニ於テモ檢視ヲ廢スルハ從
來ノ素願ナリ仍テ之ヲ問題トシテ議スヘシト思考スル者ハ起立セヨ
全員悉ク起立

○議長 全會ニ致ナルヲ以テ十二番ノ建議ヲ問題ト爲ス

○二十三番柳原前光 十二番ノ建議ハ寔ニ本官ノ心ヲ得タルモノトス本
院章程第一條ニ新舊法律ヲ議定スルヲ掲ケ其第六條ニ急施ヲ要
スルノ事ニシテ檢視ヲ經ルニ暇アラサルモノハ云ヤト掲ケタレハ
成法已ニ抵觸ノ廉アリト云フヘシ歐米各國ノ議院ハ開院ノ間數月
ニ過キサルヲ以テ其開院中急施ヲ要スルハ或ハ第六條ノ如キ事
ナキ能ハスト雖モ本院ノ如キハ常開ノ議院ナレハ縱ヒ急施ヲ要ス
ルモ其議定ヲ經テ何ノ妨ケカ之レアラシヤ抑々王政維新ノ初天子
五箇條ノ勅誓アリ又明治八年四月ノ詔書アリテ既ニ立憲政體ノ規
模ヲ具シ元老大審ノ二院ヲ創設シ立法裁判ノ權ヲ行政ニ對立セラ
レタリ然ルニ彼ノ大審院長ハ大臣ヲ以テ任スルノ章程ナルニモ係

ラス漸次退歩シテ今ハ司法ノ僚屬タルカ如ク本院設シ此ニ注意セ
サレハ必ス其覆轍ヲ蹈ムアランコトヲ恐ル而シテ眼ヲ轉シテ世間ノ
景況ヲ回顧スレハ世上已ニ府縣會議アリ町村會議アリ演說會アリ
討論會アリ民權ヲ擴充シ國會ヲ興起スルノ期ハ應ニ遠キニアラサ
ルヘシ此時ニ當リテ本院ノ權限ヲ縮小セシムル檢視會ノ如キハ速
ニ之ヲ廢セスンハ果シテ國家ノ爲メ後患ヲ遺サン故ニ時機適應ノ
手段ヲ以テ議長ヨリ之ヲ建議セラレンコトヲ望ム

○十二番 河野敏鎌 全會一致本官ノ建議ヲ可トセラレタルハ實ニ本懷ノ
至ナリ而シテ更ニ一言ヲ副ントス今廿三番ハ已ニ大審院退歩ノ狀
ヲ說カレタリ是獨リ大審院ノミナラス本院モ亦恐クハ其然ルアラ
ン大審院ノ如キハ初メ省使ノ上ニ列セシモ今ハ忽チ其下ニ位シ其

長モ亦司法卿ノ指揮ニ從フモノト爲レリ是或ハ自カラ招ク所アル
ヘシト雖モ譬ヘハ茲ニ人アリ弱キ者ニ向テ其面ニ唾センニ傍觀者
ハ何レヲ是トシ何レヲ非トスヘキヤ苟モ心アル者ハ必ス其唾スル
者ヲ以テ非トスルナルヘシ然レモ弱者モ亦其辱ヲ速カサランコトヲ
勤ムヘキナリ本院未タ此ノ如キ極點ニハ至ラサルモ既ニ立法官タ
リ空シク行政ノ下ニ屈シ我明治政府ヲシテ歷史上ニ萬世ノ瑕瑾ヲ
留メサランコトヲ勉ムヘキハ各位ノ任ナラスヤ冀クハ意ヲ此點ニ注
キ以テ本院ノ地歩ヲ維持シ夫ノ大審院ノ如クナラサランコトヲ
○二十番 佐野常民 今日斯ル非常ノ檢視會ヲ開クノ時ニ方リ陳述セル十
二番ノ說ハ最モ是ニシテ信ナリ故ニ議長ハ特別ノ方法ヲ以テ上奏
ノ手段ヲ盡サレ以テ本官等ヲシテ企望ヲ達セシメラレンコトヲ請フ

十番	福羽 美靜
十一番	東久世通禎
十三番	細川潤次郎
十七番	佐野 常民
十八番	大久保一翁
十九番	齋藤 利行
廿二番	伊丹 重賢
廿三番	岩下 方平
廿四番	津田 出
廿五番	楠田 英世
廿六番	河田 景與

午前第十時開場
 議長 第百六十二號議案ノ檢視會ヲ開ク旨ヲ告ク
 書記官 戸田 秋成 左ノ議案ヲ朗讀ス
 玉乃 世履

○議長 第百六十二號議案ノ檢視會ヲ開ク旨ヲ告ク
 ○書記官 戸田 秋成 左ノ議案ヲ朗讀ス
 布告案
 明治五年正月第貳拾八號布告銃炮取締規則第貳則中左ノ一項増加候
 條此旨布告候事

一陸海軍準士官以上ノ武官ヨリ其所有ノ銃器ヲ買入ントスル者ハ
 買入願書ニ其賣主ノ連署ヲ爲サシムヘキ事
 ○七番 柳原 前光 本案ハ不備不明ナリト認ム其理由ヲ陳述スヘシ明治五

年一月ヲ以テ布告セシ第二十八號銃炮取締規則第一則ニ大小銃並
彈藥類商賣ノ儀ハ府縣共定員商賈ノ外取扱致間敷云々トアリ然ル
ニ本案ハ單ニ銃器ヲ買入ントスル者ト言テ免許商人ノ事ヲ言ハサ
ルヲ以テ陸海軍準士官以上ノ武官ヨリ銃器ヲ買入ル、者ハ免許商
人ニアラサルモ亦妨ナシト言フカ如シ是レ不明ノ其一ナリ若シ本
案ハ第二則ノ追加ニ係リ其一則ノ意ヲ承ルヲ以テ免許商人ト明言
スルヲ要セスト言ハン乎讀者ハ却テ反對ノ見解ヲ下シテ陸海軍準
○士官以上ノ武官ヨリ銃器ヲ買入ル、者ハ異例ナルコトヲ示スノ箇條
ナリトセン是不明ノ其二ナリ且ツ該規則ニ軍用銃ト免許銃トノ區
別ヲ爲セリ而シテ本按ニハ單ニ銃器ト言テ其區別ヲ立テス免許銃
ト雖モ賣主ノ連署ヲ要スルニ似タリ是不明ノ其三ナリ又該規則ニ

ハ彈藥ノ事ヲ記載シテ本案ニハ獨リ銃ノミヲ擧ク銃ハ賣主ノ連署
ヲ要スルモ彈藥ハ之ヲ要セサルカ之ヲ要セサルハ果シテ該規則
第二則ニ照準スヘキカ是不明ノ其四ナリ仍テ檢視條例第二條ノ成
文ニ依リ其理由ヲ具ヘテ太政大臣ニ通牒シ本案ノ改正ヲ求メテ可
ナリ

○十三番 細川潤次郎 賛成

○議長 七番ノ發議ニ賛成アルヲ以テ問題トナス

○十七番 佐野常民 賛成

○議長 七番ノ議ヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者十七人

○議長 多數ヲ以テ七番ノ議ニ決シ檢視條例第二條ノ成文ニ從ヒ太

○政大臣ニ通牒スヘシト告ケ散會セシム

午前第十時二十分閉場

○本日散會ノ前議官ノ番號ヲ抽籤ス

○第十番

○第十一番

○第十二番

○第十三番

文ニ對シ其由凡ハ太夫大目ニ並列シ本家ノ如ク五テ来々マ下
第二限ニ照準スヘクモ不即シ其四ヤリ位ニ登錄附録ニ對シ知
テ要ムコト職權ハスヘクモ要クセムコトモ要クセムコトモ果々々知照
ハ請願ノ事ニ補録シ本家ニハ歸リ候ヘクモ要クセムコトモ要クセムコトモ

元老院會議筆記明治十二年十二月十五日

○第百六十三號議按明治五年第二百三十五號同九第一讀會

議長親王

出席議員

- | | | |
|----|----|----|
| 一番 | 柳原 | 前光 |
| 二番 | 黑田 | 清綱 |
| 六番 | 津田 | 出 |
| 七番 | 秋月 | 種樹 |
| 八番 | 岩下 | 方平 |
| 九番 | 山口 | 尙芳 |
| 十番 | 津田 | 眞道 |

- 十一番 田中不二齋
- 十二番 福羽 美靜
- 十四番 河瀬 眞孝
- 十五番 佐野 常民
- 十六番 河野 敏鎌
- 十八番 中島 信行
- 十九番 水本 成美
- 二十番 齋藤 利行
- 廿一番 細川潤次郎
- 廿四番 玉乃 世履
- 廿五番 大久保一翁

- 廿六番 楠田 英世
 - 廿七番 東久世通禰
 - 廿九番 楠本 正隆
- 内閣委員^{番外} 太政官少書記官周布 公平

午前第十時二十分開場

○議長 第六十三號議按第一讀會ヲ開ク例ニ遵ヒ發議スヘシ

○書記官^{戸田秋成} 左ノ議按ヲ朗讀ス

布告按

華士族平民苗字名并屋號共改稱不相成旨明治五年八月第二百三十五號同九年^月第五號ヲ以テ布告候處右ハ廢シ候條自今改姓改名致シ度者ハ本籍ノ戸長役場ヲ經テ管轄廳へ願出許可ヲ受クヘシ此旨布

告候事

○番一 番周布
外 番公平

布告按中右ハ下廢シノ上相ノ字ヲ脱セリ各位此旨ヲ了セラレヨ抑明治五年第二百三十五號等ノ布告ハ脱走浮浪ノ弊ヲ矯メ以テ戸籍ヲ精査セントスルカ爲ナリ今ヤ戸籍既ニ精査ヲ經タリ此禁ヲ解クモ特リ治政上不都合ナキノミナラス人民ニ於テ自由ノ便利アリ故ニ管轄廳ニ願出ルモノハ直ニ之ヲ允許セシメントス但シ我國ノ慣習タル職業ニ就テノ名アリ又僧侶トナレハ名ヲ改メ還俗スレハ故ニ復シ戸主トナレハ通リ名ヲ用ユル等ノ如キ枚舉ス可ラス乃チ此布告ヲ要スル所以ナリ

○廿六番 補田
英世

番外一番ノ説明ヲ聞クモ未タ其意ヲ詳カニスルヲ得ス本按ハ法律上ニ大關係アリ故ニ明治五年ノ布告ヲ廢スヘキノ理

由ヲ見出サス本官曾テ職ヲ制度寮ニ奉セシヲ以テ彼明治五年布告ノ原由ヲ知レリ原來歐米等ノ慣習ニハ改名ノ事甚タ希ナリ之ヲ改ムレハ人必ス其故ヲ怪シム但養子ハ此例外ヲ以テスルノミ然ルニ

明治九年ノ布告ハ稍寬ニシテ同姓同名ハ改姓名ヲ許スナリ其等ノ字アルカ故ニ改名處分ノ不便ヲ生スルトナラハ別ニ本按ヲ要セス内務卿ノ布達ニテモ或ハ地方官ノ諭達ニテモ宜シカラシ

○番一 番周布
外 番公平

廿六番ノ說ハ明治五年九年ノ布告ニシテ足レリト云ニ外ナラス然ルニ明治五年ノ布告ニハ同苗同名等無餘儀差支云々トアリ無餘儀差支トハ如何ナル者ヲ指スカ地方官之カ處分ニ惑ヒ續々伺出ルモノアリ然レモ據テ以テ決スヘキ法律ナキカ故ニ内務卿モ亦之ヲ斷スル能ハス遂ニ太政大臣ヘ伺出ルニ至ル而ノ大臣モ

亦法律外ノ指令ヲ爲スコ能ハス是ニ於テカ元老院ノ承諾ヲ得テ之
ヲ許スノ權ヲ行政官ニ與ヘサルヲ得サルノ時機ニ至リタルナリ
○十二番福羽美靜 本官モ明治五年並ニ九年ノ布告ニテハ障礙アリト聞
ク今其障礙ヲ除クノ主意ハ可ナリト雖モ本按ノ如キモ亦完便ノモ
ノトス可ラス請フ一二ノ質議ヲ爲サン前ノ布告ニハ既ニ屋號ノ
アリテ今之ヲ除キタリ然ラハ屋號ハ自己ノ隨意ニ改メテ可ナラン
カ且姓ハ一家ニ屬シ名ハ一人ニ屬ス輕重ノ差ナキ能ハス今回ノ布
告按ニハ其差異アルコトナシ抑此間ニ區別スル所アルカ且ヤ姓ハ如
何ノ手順ヲ以テ許否スルカ名ハ如何シテ可ナラン是亦此間ニ區別
スル所アルカ將タ之レ無シトスルカ又名ヲ改ルニ方リ戸主モ家屬
モ同一ノ手順ヲ以テ之ヲ許スカ請フ辨明アラント

○番一周布公平 屋號ノ事ハ政府之ニ干涉セサルナリ如何トナレハ明
治三年平民ニ苗字ヲ許シ既ニシテ明治八年ニ至リ明治三年平民ニ
苗字ヲ許サレタレモ其不分明ナル者ハ新ニ之ヲ設クヘキ旨ヲ布告
セリ是政府ハ屋號ニ干涉セサル所以ナリ但シ改姓ニハ其理由多シ
祖先ノ姓ニ復スルアリ或ハ新ニ土地ヲ開墾シタル者其地名ヲ以テ
苗字ト爲ス等ノコトアリ要スルニ管轄廳ニテ之ヲ許否スヘク又戸主
モ家屬モ同一ノ手順ヲ以テ之ヲ許スヘシ
○廿六番補田英世 同苗同名ノミナラス等ノ字アルヲ以テ其疆界ヲ敷衍
シテ之ヲ用ヒ得ヘシ諸般ノ例此ノ如キ者多シ豈之ヲ障礙アリト云
ヲ得ンヤ本按ハ法律ニ大關係アリ必ス修正セサル可ラス否スンハ
廢按ニ附スルモ可ナリ何ヲカ法律ニ關係アリト云フ將ニ下付セラ

レントスル刑法中附加ノ刑是ナリ公權剝奪監視等ノ者姓名ヲ改メ
ハ其監視ヲ免カル、コヲ得ヘク又犯人ヲ搜索スルニ至テモ其姓名
及年貌書ヲ以テ憑據トス不償負債者モ亦然リ漫ニ之ニ改姓改名ヲ
許スキハ身ヲ隱スノ便ヲ與フルナリ目下司法省ノ民法草按ニモ改
姓改名ハ其管轄廳限リヲ以テ之ヲ爲スコヲ得ス乃裁判所ニ於テ之
ヲ許ス等ノ條アリ是ノ如ク刑事民事ニ大關係アルヲ以テ到底本按
ハ修正セサル可ラス

○一番柳原
前光

本官ハ本按ヲ議スルニ方テ三段ノ區別アリト思考ス第

一ハ自由ニ改名改姓セシムルコトナリ人ノ生ル、ヤ名ヲ命スルハ父
親ノ自由ナリトセハ改正モ亦政府ノ許可ヲ受ルニ及サルヘシ第二
ハ各議官ノ辨セラレタル如ク法律上ニ關係アリ第三ハ屢改名スル

ノ流弊ヲ來ス是ナリ而メ本官ハ此三者ヲ折中セントスルノ說ナリ
抑明治五年五月ノ布告ハ通稱實名ノ内ニ定メヨトアリ蓋シ此從
來士人以上ハ通稱實名ノ二者ヲ有セルヲ以テナリ同年八月ニ至リ
平民ニ苗字ヲ許シ同苗同名ハ之ヲ改メヨト云フ即人民ハ其法令ニ
從フ然ルニ或縣ヨリ苗字ヲ改ムルノ不可ナルコトヲ建白スルモノア
リ仍テ明治九年ニ至リ更ニ名ヲ改メヨトノ布告アルニ至ル是其沿
革ノ大畧ナリ然ルニ本按ハ現行ノ法律ヲ全廢シ之ヲ人民ノ自由ニ
任セントスルナリ兩極相反スト謂フヘシ本官猶未タ現行法律ヲ全
廢スルノ地歩ニ達センヤ否ヲ詳カニセス以是其中ヲ執リ明治九年
ノ但書ヲ修正擴充シテ一條ノ活路ヲ開カントス其修正按ノ如キハ
○第二讀會ニ於テ之ヲ提出スヘシ

○廿四番^{玉乃} 一番ニ同意ス然レ其見解ヲ異ニスルヲ以テ聊之ヲ
陳ントス本按ハ從前ノ布告ヲ全廢スルモノナリ如此セハ人民ハ改
名改姓ノ自由ヲ得幾回改稱スルモ敢テ妨ナシトス元來人ノ証據タ
ル姓名ヨリ重キハナシ故ニ罪人ト無罪人トヲ混スルノ弊ハ姓名ノ
變更ヨリ生セントス番外一番ノ説ヲ玩味スレハ自由主義ニモアラ
ス唯現今ノ如キハ不都合ナルヲ以テ不得止此法ヲ立ルト云フカ如
シ然レ此法ヲ立ルハ所謂枉ヲ矯メテ直ニ過クル者ナリ
○十六番^{河野} 本按ハ不同意ナリ或ハ自由主義ニ反ストノ説アルヘ
シト雖此社會アル以上ハ社會上ヨリ利害ノ觀察ヲ下サ、ル可ラス
明治五年以來ノ布告ハ社會ニ害アリトスルカ其以前ハ改名自由ニ
任スルヲ以テ自ラ一時ノ流行ノ如ク今日ノ甲某ハ忽チ明日ノ乙某

トナリ郵便配達ニ差支ヲ生スル等ノ弊少カラサリシニ五年ニ至リ
一布告アリ以テ其弊ヲ除キタリ此有益ナル布告ヲ以テ俄ニ全廢ニ
付スルハ何ノ理由ソヤ大益中ニ小弊アルヲ看直ニ其法ヲ廢セント
スルハ實ニ立法者ノ踈忽ト云フヘシ其障碍ト云フモ特ニ同姓同名
ノミ其他ハ皆情願ニ出ルモノナリ彼商賈ノ通名ヲ用ヒ成年ニシテ
幼名ヲ變シ僧トナリテ俗名ヲ改メントスルモ皆唯情願部中ニ屬セ
リ今本按ノ如ク改稱ノ禁ヲ解キ管轄廳ニ出願セシムルモ其願ヲ
許スト否トニ至リ管轄廳ハ將タ何ニ由テ之カ處分ヲ爲スヤ且社會
ノ時流ニ從ヒ或ハ漢稱ニ摸シ或ハ歐稱ニ倣フニ至ルモ知ルヘカラ
ス然ラハ戶籍ト云警察ト云公債証書ノ取引ト云身代限ノ廣告ト云
其姓名ヲ改ルカ爲メニ大ナル不都合ヲ生セン然レ此現行法律ノ精

神ヲ破ラスシテ更ニ情願ヲ達スルノ好按アラハ之ニ同意セントス
ルノミ

○十五番佐野 常民 本按ノ精神ナラハ寧口廢棄ニ付スルヲ可トス何トナ
レハ本按ハ改正ニアラス變革ニシテ現行ノ布告ト全ク主義ヲ異ニ
セル者ナリ夫レ姓名ハ何ノ爲メナルヤ即チ符徴ナリ同類ノ人多キ
モ姓名以テ之ヲ區別スルナリ蓋シ各ハ人ノ區別姓ハ家ノ區別ナリ
而ノ政府ハ其姓名ニ由テ此人ハ何此家ハ何ト認ムルノ票牌ナリ故
ニ漫リニ姓名ヲ變改セシムルハ甚タ不可ナリ本邦古來老幼各ヲ異
ニスルノ慣習アリ太タ不都合ナルモノナリ既ニ此慣習アルヲ以テ
名ヲ命スルニ方リ之ヲ其初メニ慎マサルナリ名譽ハ其何ニ因テ生
スルヤ名アリテ後生スルモノナリ醜名美名皆然リ此點ヨリ之ヲ考

フレハ自由ニ改名ヲ許スヘカラス若シ之ヲ自由ニ任スルノ時ニシ
テ突然其制ヲ改ムルハ或ハ多少ノ不便アリト雖モ明治五年已ニ
其之ヲ許サ、ルノ法アリ以來七年間現ニ此法行ハレテ目下人民ノ
慣習ヲ成セリ然ルニ明治九年ノ布告ニ等ノ字アリテ其字句ニ疑ア
ラハ一ノ行政上ノ規則ヲ以テ之ヲ定メテ可ナリ畢竟等ノ一字漠然
タル因ヲ致シ且行政上ノ規則ナキカ故ニ今日施政ノ不都合ヲ招致
スルナリ故ニ本按ノ如キ精神ナラハ之ヲ廢棄ニ付セントス

○十八番中島 信行 本官ノ意見ハ稍異ナリ前年ノ布告ハ政府時ヲ知ラス
シテ之ヲ發シタルナリ故ニ之カ爲メニ多少ノ不便ヲ生シ其不便ヲ
蒙ル者往々之アリ若シ此ノ如キ小事ヲモ干渉セハ或ハ某ハ商業ヲ
爲セ某ハ農業ヲ爲セ家屋モ此ノ如クニ改造セヨト云フニ至ルナラ

十四
シ且犯罪人ノ事ヲ引クハ甚タ迂ナリ今日ト雖_レ犯罪人豈其原名ヲ公稱シテ天下ヲ公行センヤ人民カ改稱セント欲スルノ希望ハ當該者ニ非_レハ其何ノ故ナルヤハ未タ知ル可ラスト雖モ改正セント欲スルモノハ熱望不止モ亦知ル可ラス況ヤ屋號ノ如キハ政府ノ干涉スヘキ者ニアラス文墨社會ノ雅號ハ如何之ヲモ廢セヨト云ン乎故ニ本官ハ本按ヲ可ナリトス

○十二番 福羽美靜 改名改姓ハ決シテ爲スコヲ得スト云ハ無理ナリ而シテ之ヲ一般自由ニ任スルハ不可ナリ有位無位有勳無勳等モ區別セサル可ラス本官嘗テ制度寮ニ在テ此ニ論及セシコアリ宜シク憑據スヘキ條例ヲ作ル可シ若シ本按ノ若クナラハ廢按ヲ可トス

○廿一番 細川潤次郎 兩極ノ討論詳カニ聽ヲ得タリ抑明治五年ノ布告如

何ニ於テハ別ニ論アリト雖_レ九年ノ布告ニ至リ既ニ幾分寬大トナレリ然_レ我國目下成文ノ法多ク一々此ニ據ルヲ以テ太政大臣モ之ヲ左右スル能ハス故ニ已ムヲ得ス前令ヲ多少改メサル可ラサルニ至ル然リト雖_レ到底本按ノ如ク爲サ、ル可ラスト云フノ理由ヲ看出サ、ルナリ但シ無害ノ情願ハ之ヲ許シ人民ヲシテ便利ヲ得セシメサル可カラス商賣上ノ利害ヤ相續ノ都合ヤ復姓ノ幼長改名ノ是等ハ皆情願ノ上ニ屬ス明治九年ノ布告但書中等ノ字アリト雖_レ無餘義差支云ヤト云ヲ以テ行政官モ適宜ノ處分ニ依リ人民ノ情願ヲ達セシムヘキ餘地ヲ有セス抑人民ノ情願ヲ達セシムヘキ者其類甚タ多シ今姓名ニ關スル一二ノ例ヲ舉ンニ本官ノ故郷ノ如キ種々ノ習慣アリ庚申ノ月ニ生ル、者ハ必ラス金偏ノ字ヲ用ヒ或ハ

干支ニ據テ獸類ノ名ヲ用ヒサル可ラスト爲ス又楠神ト云フ者アリ
之ニ祈ルモノハ楠ノ字ヲ用フ而シテ其神ノ氏子ナルト庚申ノ月ニ
生レタルトヲ以テ之ヲ併セテ楠熊ト名クルニ至レリ是ノ如キハ愚
ニ近シト雖モ其感情ヲ考レハ止ムコトヲ得サルモノアリ既ニシテ商
賈ト爲リ或ハ仕途ニ就クヤ皆之ヲ改メンコトヲ欲スルニ至ル是從來
ノ慣習ナリ若シ一齊ニ之ヲ禁スルハ情願ヲ曲テ之ニ從ハサルヲ
得ス又父ノ子ニ名クルハ今ニ在テハ終身改ムルヲ要セサルノ名ヲ
命ス可シト雖モ若シ父親ノ不在等ニ際シテハ或ハ近隣ノ多子者ニ
依頼シ或ハ老人若クハ醫師神官ニ請テ名ヲ命スルモノ等アリテ之
ヲ満足セサレト遂ニ依然之ヲ稱スルニ至ルヘク又養子ト爲テハ其
家ノ通名ヲ用ントシ又僧俗相通セサル名モアルヘシ故ニ九年ノ布

告俎書ノ等ノ字ノ上ニ明了ナル字句ヲ加ルカ或ハ「無餘義差支」ト云
フ文字ヲ改メテ法律上變通ノ便ヲ得セシメハ内閣ノ請求ヲ達スル
コトヲ得ン

○廿九番 楠本 正隆 舊幕府ノ慣習ニ於テハ藩士ハ藩廳ニ顯出其以下ハ里
正名主ヲシテ之ヲ管知セシム維新以後尙其制錯雜セシモ明治五年
ノ布告ヲ以テ稍整頓スルヲ得タリ然ルニ今日ニ在テモ猶全ク之ヲ
許サスト爲シ其情願ヲシテ達セシメサルハ不可ナリ然レト其之ヲ
許スノ手續ハ別ニ之ヲ設ケ以テ亂雜ノ弊ヲ防カサル可ラス故ニ本
官ハ之ヲ許スノ主義ニ左袒シ廢按ノ說ヲ非トス

○議長 質議已ニ盡タルヲ以テ第一讀會ハ此ニテ畢リ來ル十八日第
二讀會ヲ開ク本日ハ散會スヘシ

午前第十時開場

十四番	河瀬 眞孝
十五番	佐野 常民
十六番	河野 敏録
二十番	齋藤 利行
廿一番	細川潤次郎
廿二番	大給 恒
廿五番	大久保一翁
廿六番	楠田 英世
廿七番	東久世通禧
廿八番	前島 密

○議長 本日ハ第六十四號議按ノ檢視會ヲ開クニヨリ例ニ從ヒ發
議スヘキ旨ヲ告ク

○書記官 戸田 秋成 左ノ案ヲ朗讀
明治十年二月第十九號布告大審院職制第一項へ左ノ通但書追加候條
此旨布告候事

院長ハ課ヲ分チ主任ヲ命シ云々

但院長事故アルキハ上席判事ヲ以テ代理セシムルコトヲ得

○議長 發議ナキヲ以テ本按ニ不備不明抵觸ノ廉ナシト認ムル者ヲ
起立セシム

起立者拾六人

○議長 檢視ヲ經過シタル旨ヲ上奏スヘシト告ケ散會セシム
午前第十時十分閉場

元老院會議筆記明治十二年十二月廿三日

○第百六十五號議案 諸罰則ヲ犯シ罰金科料ニ處 第一讀會
セラル、者處分方布告案

議長 柳原前光
代理

出席議員

三番	伊集院兼寛
四番	河田 景與
五番	伊丹 重賢
六番	津田 出
七番	秋月 種樹
八番	岩下 方平
九番	山口 尙芳

- 十二番 福羽 美静
- 十四番 河瀬 眞孝
- 十五番 佐野 常民
- 十九番 水本 成美
- 二十番 齋藤 利行
- 廿一番 細川潤次郎
- 廿二番 大給 恒
- 廿四番 玉乃 世履
- 廿五番 大久保一翁
- 廿六番 楠田 英世
- 廿七番 東久世通禧

廿八番 前島 密
 廿九番 楠本 正隆
 内閣委員^{番外} 太政官少書記官小野 梓

午前第十時二十五分開場

○議長 第六十五號議案第一讀會ヲ開ク

書記官^{戸田秋成} 左ノ議案ヲ朗讀ス

布告按

諸罰則ヲ犯シ罰金科料ニ處セラル、者處分方左ノ通相定候條此旨
 布告候事

一罰金科料ハ宣告ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム若シ限内納完セサ